

4. 地域資源発掘シート

A-1~28 農林水産物【28】

1 イチゴ	…7	2 今須杉	…8	3 花卉	…9
4 柿(太秋)	…10	5 柿(富有)	…11	6 柿(陽豊)	…12
7 カモミール(カミツレ)	…13	8 川魚(ナマズ)	…14	9 牛乳	…15
10 サツマイモ(農薬・化成肥料不使用)	…16	11 サトイモ	…17	12 蕎麦	…18
13 タマゴ	…19	14 茶(上石津産)	…20	15 茶(美濃いび茶)	…21
16 徳山唐辛子	…22	17 梨	…23	18 ハツシモ	…24
19 葉物野菜	…25	20 飛驒牛	…26	21 ブロッコリー	…27
22 ブロッコリーシード・スプラウト	…28	23 真桑瓜	…29	24 有機野菜・ハーブ	…30
25 養殖魚(鮎、ニジマス)	…31	26 ヨモギ	…32	27 レンゲ蜂蜜	…33
28 ワサビ	…34				

シートNo.	A-1	類型	農林水産物
地域資源名	イチゴ		
市町村名	大垣市、本巣市、海津市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・本巣市 <ul style="list-style-type: none"> ➡ 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 ・大垣市、海津市 <ul style="list-style-type: none"> ➡ 技術力の高い生産者がある程度集積している。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県が後継者育成にもっとも力を入れている作物の一つがイチゴ。主に美濃地方平坦部（岐阜、西濃、中濃、東濃地域）で栽培されている。出荷は主に12月から翌年5月まで、西濃地域では「濃姫」「美濃娘」「とちおとめ」などが栽培されている。 ・西濃地域で、最も多く栽培されている品種が「濃姫」。岐阜県の気候に合わせて品種改良された県育成の品種で、甘みが強くて大粒で口どけがよいので人気があり、西濃地域では県内生産全体の43%を担う主要な産地となっている。 ・「濃姫」は、大粒で食味のよい「アイベリー」に、果形と食味のよい「女峰」を交配させて1988年に誕生した。名前の由来は、色と味が濃いことから、岐阜県ゆかりの戦国武将「斎藤道三」の娘で、後に織田信長の正室となった「濃姫」にちなんで命名された。平均果重16グラムと大粒で甘味と酸味のバランスがよく、濃厚な味と香りが特徴。 ・「岐阜県市町村別地域資源一覧表」には掲載されてはいないが、大垣市や海津市などでも、イチゴ栽培農家の集積がみられる。 		
事業化への着眼点	<p>濃姫が登場する大河ドラマ「麒麟がくる」とのコラボ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年1月より、若き明智光秀にフォーカスしたNHK大河ドラマ「麒麟がくる」がスタートする。物語の前半は岐阜が舞台で斎藤道三や濃姫が登場することから、濃姫とイチゴの濃姫をコラボすることで知名度アップに繋げることができる可能性がある。 <p>事業化例：「濃姫コラボスイーツの開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発色、形、香り、食味すべてに秀でたイチゴである濃姫は、戦国武将の濃姫が有する高貴で凜としつつ艶やかなイメージにぴったり合う。 ・そこで、NHKとも協議して濃姫をイメージした濃姫イチゴを使用したスイーツを開発し、地元のほか、全国のNHKやNHKのキャラクターショップ等で販売することが考えられる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・NHKとの協議 ・参画する生産者、開発者、製造者、販売者の選定と協議 		

シートNo.	A-2	類型	農林水産物
地域資源名	今須杉		
市町村名	関ヶ原町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原町を代表する木材。雪深い地域で時間をかけて育った今須杉は、全国の著名なブランド杉にも劣らない優れた特徴を有している。 ・関ヶ原町では現在、今須杉の利用促進に取り組んでいる。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・今須杉は、吉野杉や秋田杉などの有名な杉材に比べて認知度は低いが、節の少ない美しい肌目と緻密な年輪が特徴で、加工した時の輝きや滑らかな質感は、大工が驚嘆するほど。また、雪深い地でじっくり成長するため中心部の赤みの割合が大きく、何度も行われる枝打ちによって節が少ない点も特徴。 ・通常、杉林は効率を重視して一斉植林→間伐→皆伐とするため同様の太さの木々が一定間隔で並ぶが、今須では幼木から巨木巨大な老木まで様々な木を混在させ、大きく育った木の中から良質なものを選んで伐るという、環境負荷が小さく持続可能性が高い択伐林林業の施工地としても注目されている。 ・「今須杉を後世に残し、地元の誇りとしたい」として、2016年に「imasu」プロジェクトチームが発足し、利用促進を図っている。 		
事業化への着眼点	<p>少量産地の現状に即した高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今須杉は素材として優れているが、生産量が少なく機械化も進展していないため、採算確保には高付加価値型の活用が必要。 ・一方で、資源賦存量も限られ、択伐林施業のため大量供給には向かず、投資余力のある林業経営体もないことから、設備投資に依存しない伝統的な方法で、精油分を多く残して木材としての価値をさらに高めることが重要。 ・その上で、銘木的な建材活用へのシフトや、歴史観光の土地柄を生かした観光客向けの高級雑貨商品を開発・投入することが考えられる。 <p>事業化例：「質感・光沢・芳香を生かす高級建材と高級雑貨の開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺社や高級注文住宅用に、新月伐採、天日乾燥、カンナ仕上等の設備投資が不要な伝統的な手法を用いて高級建材を開発し、併せてその端材を活用した観光客向けの高級雑貨を開発して、ともにブランド化していくことが考えられる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的手法を総動員した高付加価値化の徹底 ・デザイン性の高い商品の開発と訴求 		

シートNo.	A-3	類型	農林水産物
地域資源名	花卉		
市町村名	大垣市、海津市、神戸町、輪之内町、大野町、本巣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 西美濃地域では「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」に、大野町と神戸町のバラが指定されている 他にも、アルストロメリア、フランネルフラワー、ポットローズ、セントポーリア、カラシコエ、懸崖菊など花の生産が盛んである。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> バラ：大野町ではバラ苗の生産が日本一であり、神戸町ではバラ苗と切バラの生産が行われている。生産量はやや減少傾向であるが、今なお年間250万本以上の生産されている。 アルストロメリア：神戸町で生産が盛んで、JAにしみの「にしみのブランド」にも指定。ディスプレイ用として人気。 フランネルフラワー：岐阜県オリジナル品目で国際的な評価も高い。毛織物(フランネル)のような柔らかな白い花弁が特徴で西美濃では大垣市で栽培されている。 ポットローズ：県内鉢花の中では生産額トップで、全国シェアも50%を超える。西美濃では海津市と本巣市で栽培が盛ん。 セントポーリア：全国シェア100%の岐阜県オリジナル品目で本巣市が主産地。数万種と言われる園芸品種の多さも魅力。 カラシコエ：岐阜県が約6割の全国シェアを有する。開花調節により通年出荷可能で、生産量は増加中。西美濃では本巣市で生産されている。 懸崖菊：輪之内町では懸崖菊の生産量が日本一。懸崖菊とは、鉢植えした菊を横につき出した針金に這わせたもの。 		
事業化への着眼点	<p>生産者間連携による新商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 種類や出荷形態が地域や生産者によって異なり多様性があるのが西美濃地域の花卉栽培の特徴だが、情報発信や商品提案が地域や品目、生産者ごとにしか行われていないため、地域としての多様性や厚みが生かされていないのが現状。 逆にそうした枠を超えた取り組みを、できるところから行うことで、幅広いニーズに対応できる花卉生産の先進地域としての認知度が高まり、新たな需要を拓く可能性がある。 <p>事業化例：「西美濃ハーバリウム」</p> <ul style="list-style-type: none"> 西美濃エリアで栽培された花を持ち寄って多様なハーバリウムを作成、共同で受注・販売する。近年ハーバリウムは、長期間花が楽しめ、インスタ映えするので人気が出ている。様々な花を生産する西美濃の魅力を凝縮した製品になる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域・品種・品目を超えたコラボの促進 花の乾燥技術の確立 		

シートNo.	A-4	類型	農林水産物			
地域資源名	柿（太秋）					
市町村名	本巣市、大野町、神戸町					
地域資源となる理由	・「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。	【イメージ】				
内 容	<ul style="list-style-type: none"> わが国の甘柿の6割強を占める晩生の「富有柿」と収穫期が重ならない中生の甘柿。大きさは400g程度で富有柿の1.5倍程度と大きく、さくさくして柔らかく果汁が非常に多い。柿独特の匂いが少なく、時間経過による軟腐化の進行が遅くて長期間シャキシャキ感が続く、といった特長がある。 そのため、他の柿は苦手でも太秋なら美味しく感じるという消費者も多く、近年富有柿の代わりに作付する生産者が増えてきている。 果実が少し青みがかっていても甘く、また「条紋」という波紋状のひび割れが果頂部に出ることがよくあるが、むしろ条紋の部位の方が甘い。 					
事業化への着眼点	<p>スイーツとの相性の良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 果物の甘さは、主に果物に多く含まれている糖分である果糖に由来しているが、太秋は果物でありながら糖分の主力が果糖ではなくショ糖だという特色がある。そして、果糖とショ糖とは分子構造の違うため、果糖よりショ糖の方がスイーツに多様されるクリーム等の乳製品との相性が良い。 すなわち太秋は柿の中でも例外的にスイーツとの相性が良いということであり、この特性を生かした商品化の可能性がある。 					
事業化例：「スイーツ用 太秋柿チップ・ペースト」						
<ul style="list-style-type: none"> ショ糖由来のスイーツとの相性の良さを前面に出し、業務用の製菓原料として、需要が多いチップとペーストを開発し、地元食品加工事業者向けに販売する。 開発にあたっては、地元パティシエなどの需要サイドも交えた共同開発とし、太秋の特長をフルに生かした商品化を図る。 						
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 加工原料となる原料柿（出荷対象外など）の確保 委託加工先の確保 太秋の特長が残る加工（乾燥、ペースト）技術の確立 					

シートNo.	A-5	類型	農林水産物
地域資源名	柿（富有）		
市町村名	本巣市、大野町、神戸町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	【イメージ】 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 富有柿は、国内で一番生産量が多い甘柿で、他の品種と比べて食感が良く糖度が高いことから「甘柿の王様」と呼ばれている。 富有柿の発祥の地は瑞穂市居倉地区で、現地には富有柿が誕生した「原木」があり、瑞穂市天然記念物に指定されている。 最も生産量が多いのは奈良県。次いで福岡県、岐阜県は3番目。この3県で全国の半分以上を占めている。現在では全国に富有柿の栽培が広がり、世界各国でも生産され食べられている。 晩成の代表品種で11月中下旬が収穫期。完全甘柿で甘みが強く、肉厚で果肉が柔らかく280グラム程度と大きくなる。 単為結果性がやや低いため、安定生産のためには受粉が必要。 西美濃地域には、富有柿を箱買いしてそのまま贈る「贈り柿」の文化があり、シーズンには直売所や果物店の店頭に贈り柿用の柿箱が山積みされるのが風物詩となっている。 		
事業化への着眼点	<p>水溶性ペクチンのコントロール</p> <ul style="list-style-type: none"> 富有柿は甘柿であるので、熟度が上がるにつれて水溶性ペクチンが急増し、これが固化、風味の低下、褐変、ホルムアルデヒドの生成などの回避したい変質の原因となる。 このため、富有柿の加熱加工は難しいとされているが、様々な研究の結果、柿の熟度、温度帯、PHなどによって、水溶性ペクチンの生成や作用をコントロールできることが分かってきており、それらの知見を活かした加工商品化の可能性がある。 <p>事業化例：「極低温間欠乾燥によるソフト柿製造」</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾燥温度が30℃以下だと、褐変、風味低下、ホルムアルデヒド発生、固化が少ない。 そこで、乾燥温度を30℃以下に保ちつつ乾燥工程に表面結露を促す冷却工程を交えることで、芋内部から表面への水分移動を促す丸形干し芋用の冷風乾燥機を用いれば、ソフトで良質な乾燥柿を量産できる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 熟度の揃った原料柿の確保 大型冷風乾燥機のある委託加工先の確保 		

シートNo.	A-6	類型	農林水産物
地域資源名	柿（陽豊）		
市町村名	海津市、養老町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 陽豊柿の産地は、全国でも海津市と養老町にほぼ限定されており、生産量は少ないものの品質は非常に高い。 物語性に富んだ栽培プロセスや、ほとんど市場に出回らない希少性を有していて、高級果物としての訴求が可能である。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 陽豊柿は富有柿と次郎柿の掛け合せで生まれ、1991年に品種登録された。主にJAにしみの経由で出荷されている。 岐阜県産柿の大半を占める富有柿と比べると、1つ250g程度と大きめで、色は赤に近い濃橙色、糖度も富有柿の15度程度に対して陽豊柿は約20度と高く、種もほとんど無いなど、明らかに優れた特長を有している。 一方、収穫までにかかる手間も多く、富有柿より成木してから実をつけるまで何年もかかり、摘果や剪定にも高度な技術が要求されることに加え、富有柿より2~3週間長く樹上で熟成させるため鳥獣害に遭いやすく、生産コストが高く歩留りが悪い。 このため、流通量は極めて少なく、「幻の柿」と呼ばれている。 JAにしみのから出荷された陽豊柿は、全量が東京の「ショップチャンネル」を通じて販売されているので、逆に地元ではあまり活用されていない。 		
事業化への着眼点	<p>地元での規格外果実の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在は薄利多売の通販頼みの販売であり、生産コストの高さや歩留りの悪さもあり、生産者は適正収益を確保できていないが、地元需用の創出による収益機会増大の可能性は大きい。 具体的には、規格外の柿（特に熟しすぎた柿）は通販での販売が困難で大半が廃棄されているので、製菓素材用のペースト等に加工するなどして地元で活用できる可能性がある。 現在、地元で熟しすぎた柿を原料とする柿酢を作って販売しているが少量であり、こうした動きを広げる余地はある。 <p>事業化例：「地元パーティシエ競作による陽豊柿菓子詰め合わせ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 当地には柿菓子で有名な事業者も多いことから、各事業者が陽豊柿ペースト等を素材とする新たな柿菓子を作り、それらを詰め合わせて贈答品を作ることで、話題性と柿のプロならではの多様なアイデアが盛り込まれた人気商品となる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 栽培技術の継承と生産者の裾野の拡大 地元での活用方法のプロデュース 		

シートNo.	A-7	類型	農林水産物
地域資源名	カモミール（カミツレ）		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> カモミール（和名カミツレ）は、主に大垣市南部で大垣市薬草組合を中心に栽培されており、日本一の生産量を誇る。約37年前、株式会社カミツレ研究所（本社：長野県池田町）からカモミールの契約栽培の打診があり栽培を開始し、2004年からは、化学合成肥料・農薬不使用栽培に取り組んでいる。 カモミールの栽培には、稻と比較して3~5倍の肥料が必要であったり、専用の農機がなく手作業で播種・定植・収穫・調整・乾燥・裁断等をする必要があったりと、生産者の負担は大きい。 現在は、大垣市薬草組合が取り纏める株式会社カミツレ研究所との契約栽培が大半で、契約栽培分は全量を株式会社カミツレ研究所に出荷しているが、生産者の負担が重く収益性が低いことが課題。 また、契約栽培分は独自商品の開発や商品化には使用できないため、多量のカモミール原料が必要な商品化には、株式会社カミツレ研究所との調整が必要となる。 		
事業化への着眼点	<p>地元での段階的な商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社カミツレ研究所との契約栽培は37年余り安定的に続いていること、今後も生産・販売の基盤として重要。 一方、大垣市薬草組合に所属していない生産者なら契約栽培に伴う出荷義務はなく、地元での商品開発は可能であり、小規模ながらハンドソープの試作実績はある。 そして、仮に地元で開発した商品が育ってこれば、組合を通じた契約栽培を続けるか、組合には属さずに地元開発商品への原料供給をするかという選択肢を生産者が持つことになり、販売価格が上昇して産地の活性化につながる可能性がある。 <p>事業化例：「カモミール配合の石鹼・ハンドソープ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 手作業で栽培・収穫していることや化学合成肥料・農薬不使用であることで「安全・安心」をアピールし、子育て世代をターゲットに開発・販売する。 C-40「大規模冷風乾燥施設」を活用することにより、製造コストや手間を低減できる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 原材料の確保 栽培・収穫・乾燥方法における省力化 		

シートNo.	A-8	類型	農林水産物
地域資源名	川魚（ナマズ）		
市町村名	海津市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県は「やな」に代表される川魚を捕食する文化が根付いている。 海津市の千代保稻荷周辺の飲食店では川魚料理を提供していて、ナマズ料理は特色ある郷土料理として人気があり、また周辺地域にもナマズ食の文化がある。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> わが国で現在、ナマズを食用に用いるのは関東地方か岐阜県に限られている。 岐阜県では木曽三川が集まる西濃地域で食べられており、特に海津市の千代保稻荷神社の参道にはナマズを提供する店舗が目立つ。 食べ方は蒲焼きや天ぷら、刺身など幅広く、また、海津市の「市の魚」にも指定されている。 一方、世界ではアジアを中心にナマズは広く食べられており、世界全体の養殖量は1999年からの10年間で5倍になるなど注目が高まっている。また、あっさりした自身だが脂が多いためフライやソテー、ムニエルに適しており、アメリカ南部ではナマズフライがソウルフードとして愛されているが、現在のところ海外からの観光客向けの展開には至っていない。 日本においては、絶滅が危惧されているニホンウナギの代用食材としても、近年注目されている。 		
事業化への着眼点	<p>ディープな魚食文化</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人はもとより世界有数の魚食国である日本でも、ナマズを食したことがある人は少数派である。 一方、観光客の来訪目的は、インバウンド客も含めて地域ならではの文化や風土を感じられるものへの人気が高まっている。 ユニークで強力な集客力を有する千代保稻荷神社との組み合わせは、国内外の観光客にディープな体験を提供できる。 		
	<p>事業化例：「なますフライ & ロースト」</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカ南部の伝統料理「キャットフィッシュフライ」のように、自身魚のフライはアジアや欧州も含めて多くの国で食されているが、日本独特な食べ方である蒲焼（ロースト）を組み合わせることで、食文化体験の奥行きが広がる可能性がある。 自身で脂の多いナマズなら、冷凍ナマズをベースとして通年販売できる可能性もある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ナマズ供給量の安定確保 統一的なメニューの開発 		

シートNo.	A-9	類型	農林水産物
地域資源名	牛乳		
市町村名	大垣市、海津市、池田町、神戸町、安八町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・西美濃には牧場が点在しており、牧草、飼料用米の生産・給餌も行われている。 ・池田町、神戸町、安八町には牛乳の集荷・殺菌拠点があり、西美濃には地域内で完結する牛乳のサプライチェーンがある。 ・中には、酪農から加工、販売まで一貫して行い、ブランド化に成功している事業者もある。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・生産量は縮小傾向にあるとは言え、牧草生産に適する西美濃は昔から酪農が盛んで、今も牧場や牛乳生産拠点が点在する。 ・酪農農家等による小規模な牛乳生産拠点に関する規制緩和の流れと、地元素材使用による差別化を図りたい食品加工事業者のニーズ増大もあり、高品質な地場産牛乳への引き合いは強い。 ・そんな中で、飼料、殺菌方法（タンパク質を変質させない低温保持殺菌）にこだわり、直売所、カフェ、ネットショップ等も経営する事業者は、生産規模こそ小さいものの、品質を重視する製菓事業者や住民に支持されており、地元に根差した小規模生産者の生き残り戦略の成功例として、関係者に注目・期待されている。 		
事業化への着眼点	<p>地元コラボによる業販分野の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場の中小製菓、飲食事業者は、地元の特色ある高品質な素材を使用することで、同業者との商品差別化を図れないかと常に模索している。 ・中小牛乳生産者は大手乳業メーカーや学校給食への出荷、もしくは地元消費者への直売という二択の販売が一般的だが、地元の製菓や飲食事業者への業販という選択肢にも可能性がある。 <p>事業化例：「果物プリン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物には、熟度が高まるにつれて増加するペクチンという成分があり、牛乳に含まれるカゼインと結合して固化する性質があるが、大量生産では反応をコントロールすることが難しい。 ・しかし、少量生産であれば素材の状態をきめ細かく確認することで、果物と牛乳を主原料とし、固化材を使わずに素材感あふれる無添加プリンができる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・委託加工するコラボ事業者の確保 ・素材鮮度を生かした商品開発 ・冷蔵搬送手段、販売先の確保 		

シートNo.	A-1 O	類型	農林水産物
地域資源名	サツマイモ（農薬・化成肥料不使用）		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市内での試験栽培を経て、2019年度に大垣市内で約1ha、2020年度には約2haの栽培が予定され、有機栽培サツマイモの集荷・加工施設の整備も進行中。 干し芋やスイーツなどの加工品も含めて、大垣・西濃の特産化を目指す動きが顕在化している。 		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市内では、水はけの良い上石津地区で小規模ながらサツマイモの有機栽培が行われていて品質面での評価も高いが、水はけの悪い平場は栽培には不向きとされてきた。 しかしながら、大垣市内のOKB農場において、休耕田でサツマイモの有機栽培を可能とする土壤改良技術が確立したことに加え、収穫した有機栽培のサツマイモを集荷・糖化貯蔵・下処理・加工・商品化するための施設整備も進みつつある。 さらに、ペースト加工、干し芋加工などの試作も始まっており、関係者の特産化に向けた意欲も強い。 		
事業化への着眼点	<p>サツマイモ栽培可能圃場の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 「適地適作」との言葉が示すように、農作物は土地の風土、特に土壤環境に合わせて作付することが基本だが、大垣市内の地下水位が高く水はけの悪い水田（OKB農場）でも、簡易な土壤改良や栽培の工夫により採算性の高いサツマイモの有機栽培が可能であることが実証された。 今後、作付面積が拡大して生産量が増加し、有機栽培サツマイモの供給力が増大することが見込まれる <p>事業化例：「有機栽培干し芋・芋ペースト」</p> <ul style="list-style-type: none"> OKB農場の原料芋保管・下処理施設や、大垣市公設市場の加工施設・乾燥施設等を活用すれば、有機栽培したサツマイモを使用した干し芋を量産化が可能。干し芋にしにくい端材は、ペーストにすればスープや菓子の原料として販売可能。 国産素材の干し芋は近年需要が増加しており、加えて農薬・肥料不使用栽培を訴求できる商品を量産化して、競争優位を保つことで、産地化・特産化に至る可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 原料芋の安定確保（作付面積増加） 商品の販売戦略の構築 		

シートNo.	A-11	類型	農林水産物
地域資源名	サトイモ		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市で生産されたサトイモは、「大垣里丸」というブランドで販売されていて、プロの評価は高い。 作付面積は小さいが水田で栽培が可能であり、需要が高まれば伸びしろがある。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市内のサトイモ生産に関しては、2006年に設立された、「JAにしみの大垣さといも部会」を中心に生産・ブランド化がなされ、サトイモの良品の中でも、特に形が丸いものだけを「大垣里丸」として販売されている。肉質はしっとりなめらかで白く、独特のぬめりがある。 中濃エリアの「円空芋」、愛知県東三河の「八名丸」、福井県大野の「大野芋」といった、ブランド化された土垂系のサトイモと同系統と言われ、美味しさには定評がある。 4月に種イモが植えられ、11月から3月まで出荷される。作付面積は多少の増減はあるものの、おおむね1.5haで安定している。 大垣市の食育推進計画に基づき、2015年度に行われた地産地消アイデア料理コンテストでは、サトイモのレシピコンテストが行われ、「サトイモしんじょあんかけ」や「ふんわりサトイモまんじゅう」などが入賞するなど、サトイモが地域に根ざした食材となりつつある。 		
事業化への着眼点	<p>水田栽培適性、食物としての機能性、冷凍加工適性の高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> サトイモは水田での栽培が容易で、低カロリーかつ食物繊維も豊富、便秘予防や消化促進の効果のある成分も含まれるため、機能性を生かした商品開発が可能。 また、衛生管理に留意して、皮むき・加熱殺菌後に急速冷凍すれば、通年供給が可能で、大垣市のOKB農場は急速冷凍したサトイモのサンプル出荷を開始している。 <p>事業化例：「さといもコロッケ」</p> <ul style="list-style-type: none"> じゃがいもの代わりにサトイモを使用したコロッケ。クリーミーでなめらかな食感と、植物繊維の多さがアピールポイント。 青果販売は難しいが味に遜色ない規格外品や親芋も利用でき、冷凍保存により通年供給も可能で、イベント用にも合う。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> サトイモの特長を生かした加工品の新商品開発 地域ブランド化に向けたサトイモ生産増大 		

シートNo.	A-12	類型	農林水産物
地域資源名	蕎麦		
市町村名	大垣市、関ヶ原町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 関ヶ原町では各地で蕎麦栽培が行われており、関ヶ原の決戦の地付近では蕎麦の開花期は絶好の撮影スポットとなるなど、地域に根付いている。 関ヶ原産の蕎麦を提供する飲食店も人気を博していて、地域資源と評価できる。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 伊吹山麓に位置する関ヶ原町は、湧水や河川水の水質が良く、昔から蕎麦の栽培が盛んで品質の評価も高い。 専ら地元産の蕎麦を提供する飲食店として、そば処幸山と玉倉部そばの2店があり、素材のみならず手打ちにこだわった製法などが評価され、いずれも固定客がついていて、ほとんど完売する人気ぶりである。 このうち、関ヶ原町玉地区では、2015年から60～70代の住民有志15人で玉倉部そばの会を発足させ、使うそば粉は同地区産のものだけとし、使う水も古代の英雄・ヤマトタケル伝説ゆかりの「玉倉部の清水」にちなんで、地元鍾乳洞からの湧水を使い、関ヶ原鍾乳洞売店の食堂スペースで提供しているが、蕎麦目的での来訪者を誘引するなど地域活性化に役立っている。 しかしながら、いずれも収益性は高くなく、後継者を呼び込むためには、収益事業化の工夫が必要である。 		
事業化への着眼点	<p>歴史的な地域資源とのコラボレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 関ヶ原は天下分け目の合戦の舞台となった地で観光客は多いが、提供できる蕎麦の量と提供場所が極めて限定的で、歴史観光の地の利を生かしているとは言えない。 栽培、収穫、蕎麦打ち作業を、味を損なわない範囲で機械化して生産量を増やしながら、提供する場を増やすことで、観光側のニーズと結びつく可能性がある。 また、玉倉部そばはヤマトタケル伝説や、関ヶ原鍾乳洞とも結びつきが深く、これらも観光誘客に使える可能性がある。 <p>事業化例：「ヤマトタケル伝説の地と関ヶ原古戦場を巡るツアー」</p> <ul style="list-style-type: none"> 昼食は、地元産蕎麦の実や野菜を使った天そば、お土産には地元産蕎麦を、歴史観光と組み合わせたツアーを組んで、定番化を目指す。主要観光スポットと昼食会場では、地元案内によるガイド付きのツアーとし、交流・体験も組み込む。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 地元産蕎麦の安定的な確保 行政も交えた観光事業者との調整 		

シートNo.	A-13	類型	農林水産物
地域資源名	タマゴ		
市町村名	大垣市、本巣市、海津市、養老町、垂井町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 西美濃地域では、他地域と違って全国展開している事業者の巨大な養鶏場はないが、逆に小規模ながら歴史ある多数の養鶏事業者が、それぞれの特色を打ち出して、地域の風土に根差した個性的なタマゴを産出・供給している。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 西美濃地域は人口密度が高く、交通至便で大消費地にも近いことから、養鶏が昔から盛んで、今でも各市町に養鶏場や出荷施設が数多くある。 各養鶏場は、生き残りをかけて、種鶏、エサ、飼育方法などを独自に工夫して、タマゴの差別化、ブランド化にも熱心に取り組んでおり、各養鶏場には地元住民や飲食店などの固定客がついている。 例えば、国の6次産業化の認定を獲得して、加工商品開発を加速したり、99%国産飼料を与えることでブランド化を図ったり、肉ではなくタマゴを出荷するために名古屋コーチンを飼育したりして、付加価値アップに積極的に取り組んでいる。 		
事業化への着眼点	<p>菓子用タマゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> 西美濃地域は、大垣市が戸田家の、海津が松平家の城下町であったことや、大垣が陸上・水上交通の結節点であった影響により、菓子製造・販売を業とする事業者が多い。 飲食店や中食事業者は、地元産タマゴの使用を意図的に使用することが多いが、菓子製造にタマゴは不可欠で多用するが、地元産へのこだわりは比較的薄く、関係強化の余地が大きい。 <p>事業化例：「西美濃のタマゴシュー&マドレーヌ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字通り、生みたてで鮮度抜群の西美濃産のタマゴをふんだんに使用したシュークリームと日持ちがするマドレーヌを、他の素材も例えば砂糖の代わりに西美濃産甘酒や芋ペーストを使うなど、極力西美濃産にこだわって作る。 タマゴ自体の特長や美味しさを食べて実感できるように、レシピを作り込むことで、タマゴが主役の菓子を作る。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 共同開発する製菓事業者の確保 製菓事業者の要望をふまえた特長あるタマゴの生産 		

シートNo.	A-14	類型	農林水産物
地域資源名	茶（上石津産）		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市上石津地区で生産されるお茶は、「美濃いび茶」として「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」に登録されている。 しかし、旧上石津町は揖斐郡には含まれず、上石津のお茶生産者の多くは系統出荷でない独自販路や商品化により販売しており、美濃いび茶とは異なる特徴がある。 		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県内でも最も古く、奈良時代からお茶の栽培を行っていたとの記録もある大垣市上石津地区は、鈴鹿・養老両山脈に挟まれていて風通しがよく、霧が深く、なだらかで日当りや水はけの良い扇状地が広がっていて、昼夜の寒暖差が大きいため、お茶の栽培に適していて、まろやかでコクのある良質のお茶ができる。 同地区のある生産者は、地元の有機資材を肥料化して茶園に投入する農法を確立し、栽培品種・栽培方法・販売方法も独自に選定・構築しており、国の6次産業化認定も取得して、加工品開発や消費者との交流にも熱心に取り組んでいる。 		
事業化への着眼点	<p>ストーリーの詰まった商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣市の上石津地区は、お茶の生産地としての歴史性、風光明媚な景色、山に囲まれた程よい隔絶感をベースに、他の事業者とのコラボや消費者との交流、商品開発にも熱心な生産者がいることから、こうした特徴を生かして体験観光を絡めた商品化の可能性がある。 <p>事業化例：「育てて作って飲んで食べるお茶」</p> <ul style="list-style-type: none"> 立地や風土を生かして体験型茶園として、栽培・収穫・加工などのお茶に係る体験を売り物として誘客し、そこで上手に淹れた良質なお茶を味わい、お茶を使った料理を食べ、お茶の加工品を土産として用意する。 現在、上石津にはホテル・旅館がないので、農家民泊の導入やキャンプ場との連携などにより、滞在時間を長くすることも考えられる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 観光事業者との連携 多様な事業者とのコラボによる商品開発とPR 		

シートNo.	A-15	類型	農林水産物
地域資源名	茶（美濃いび茶）		
市町村名	大垣市、揖斐川町、池田町、関ヶ原町		
地域資源となる理由	・「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県で生産されるお茶は「美濃茶」と呼ばれ、うち西濃地域で生産されるものを「美濃いび茶」と呼んでいる。まろやかで香り高いお茶として知られている。この地域は伊吹おろしという風のおかげで茶葉に霜がつきにくく、内陸部の土地のため潮風の影響も受けず安定した生産を行うことができている。 美濃いび茶の歴史は古く、室町時代の文献に池田町の茶畠の記述があるほか、江戸時代に幕府御用番茶に選ばれたことで、「美濃茶」が誕生したともいわれる。開国時に輸出量を大幅に増やし、「美濃いび茶」の名前が広まった。 その後、製茶機械の導入を早期に行ったほか、揖斐川町では乗用摘茶機が集中的に運用されていて、効率的な生産を行っている。一部では「ぎふクリーン農業」への取り組みも進んでおり、人にやさしいお茶づくりが進みつつある。 山間地を除いて、系統出荷比率が高く、大ロット対応も可能。 		
事業化への着眼点	<p>抹茶の産地化</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的には、一般的な茶葉の流通量や流通単価の減少傾向が止まらない一方、抹茶に関しては生産・消費とも伸びている状況を勘案すれば、産地として抹茶生産を本格化させるという選択肢も考えられる。 これまで、美濃いび茶には抹茶がほとんどないことが弱みだが、産地としての一丸となった動きがとれる事が強みであり、伸びしろも大きいため抹茶の産地化も十分可能性がある。 <p>事業化例：「ユーザー起点の契約抹茶栽培」</p> <ul style="list-style-type: none"> 後発産地は、やみくもに栽培・生産したり、生産した抹茶の加工品開発に力を入れたりしても、既往産地を超えない。 ユーザーのニーズにきめ細かく応えられることが長所であり、例えばチョコレートに合うとか、水に溶けやすいとか、香りがひときわ高いとかのユーザーの要望に、栽培・加工方法の工夫で対応する、ユーザー起点の生産ができる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 抹茶生産の技術指導 美濃いび茶抹茶の商品開発 		

シートNo.	A-16	類型	農林水産物
地域資源名	徳山唐辛子		
市町村名	本巣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・獣害に遭わず、山間地の厳しい冬を乗り切るため、体を暖めるのに好適な食材として揖斐川町（旧・徳山村）にて栽培され、ダムによる水没後も本巣市にて生産されているという風土に根差した農産物。 ・辛み成分が1.6倍と非常に辛い事に加えて旨みも強く、近年加工品も開発されて脚光を浴びている。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・徳山ダムの底に沈んだ揖斐川町徳山地区のみ栽培されていた幻の激辛唐辛子。青く若いものは辛さの中に独特の風味があり、赤く熟したものは特に辛みが強い。徳山地区の特産物として知られていたが、徳山ダムの完成により産地が水没した。 ・今から60年ほど前に徳山ダム建設に携わった方（本巣市能郷営農組合長）が、独特の辛さと味を気に入り、種を譲り受け少量ながら自家用として細々と栽培していた。 ・その取り組みを知った本巣市が、「ダム湖に沈んだ幻の唐辛子」として新たな特産品とするべく、最適な栽培方法を探りながら、安定生産や販路確保を目指している。 ・また、岐阜農林高校が徳山唐辛子を使った商品開発をしたり、市内飲食店がオリジナルメニューの開発をしたりしている。 		
事業化への着眼点	<p>ストーリー性と機能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ダム湖に沈んだ幻の唐辛子」の復活というストーリー性や希少性は、特別感を際立たせて消費者に訴求しやすいことに加えて、辛みの機能性成分であるカプサイシンが多く含まれているのも脂肪燃焼という期待効果を訴求しやすく、商品開発においては、ストーリー性と機能性をPRしやすい形で推進することが考えられる。 <p>事業化例：「徳山唐辛子入り脂肪燃焼サプリ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脂肪燃焼を促す機能性成分であるカプサイシンが市販の一昧唐辛子の1.6倍含まれている結果もあり、脂肪燃焼効果をアピールできる可能性が高く、一方、そのまま食べると辛すぎるので、サプリメントにすると摂取をしやすくなり、リピーター呼び込みやすくなる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・バラツキ（個体差）の平準化 ・施肥を含む最適な栽培方法の確立 ・収穫時期以外の販売に向けた保存 		

シートNo.	A-17	類型	農林水産物
地域資源名	梨		
市町村名	大垣市、揖斐川町、池田町、垂井町、関ヶ原町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣では、南若森と曾根地区で梨の栽培がおこなわれている。市街化区域にある南若森の圃場拡大は困難であると考えられるが、市街化調整区域にある曾根地区においては圃場拡大の可能性が考えられる。 大垣は江戸中期に国内でいち早く梨栽培に成功し、現在生産量上位である茨城県や千葉県の梨の由来にもなった。こうした史実を生かしてストーリー性に富むブランド化の可能性がある。 大垣市周辺の西濃の町では、大垣市の梨農家で修行後に独立した梨農家が点在しているが生産量は多くない。また、大垣市の曾根地区の若手生産者を主体に、不定期に勉強会が開催されていて、生産技術等をめぐって互いに研鑽している 		
事業化への着眼点	<p>摘果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣市内外の梨農家は、生産技術が高く、販売先は一般固定客で系統出荷や市場出荷はないため、青果では規格外や出荷対象外などのハネ品はほとんど発生しない。 一方、摘果した小さな梨は全く使われずに圃場で廃棄されているので、この商品化ができれば利益率は高い。 皮の部分にはカリウム・アスパラギン酸・ポリフェノールが豊富に含まれており、こうした機能性を生かした加工品の開発・販売が考えられる。 <p>事業化例：「梨コーディアル」</p> <ul style="list-style-type: none"> コーディアルとは、季節のハーブやフルーツを生のままシロップに漬け込んだ濃縮ドリンク。健康にいいというイメージから近年流行っていて、特に20～30代の若い女性に人気がある。 炭酸割やリキュール割で飲用するので、コーディアル自体のほか、炭酸やリキュールで割ったものも商品化の可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 出荷に適さない梨や摘果した梨の集荷 委託加工先の探索 皮部分の残留農薬の除去方法（皮ごと利活用するため） 		

シートNo.	A-18	類型	農林水産物
地域資源名	ハツシモ		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	・「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ハツシモは岐阜県、特に西美濃地域を中心に栽培されている水稻の品種で、西美濃を代表する農産物である。粒が大きくて、ご飯の見た目や触感が良く、冷めても美味しいので寿司飯としての評価が高い。 ・品種改良が行われ、2010年からは従来のハツシモから病気に強く栽培もしやすい品種である「ハツシモ岐阜SL」が栽培されている。 ・名前の由来は「初霜の降りる頃までじっくり育てられること」といわれ、晩生に分類され、温暖化の進展による昨今の高温障害には強い。現状では大半が岐阜県内で消費されていて県外への販売はまだ少なく、栽培地域も西美濃地域に偏在していることから、逆に今後、地域ブランドとしていきやすい面もある。 		
事業化への着眼点	<p>西美濃地域への浸透度と他の銘柄米と明確に異なる米の特長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産も消費も西濃地域に集中しているという地域性は、PR方法によっては他地域の消費者の興味を喚起する可能性があり、西美濃の地域ブランドに育成していくには好都合。 ・最近各地で新たな銘柄米の開発・投入が相次いでいるが、いずれももっちり・ねっとりとした食感が売りで、ハツシモが有する「あっさり」「さっぱり」「冷めても旨い」という特長は際立っているので、特長を生かした商品化の可能性がある。 <p>事業化例：「イートインのおにぎり・五平餅専門店の展開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷めてもおいしいハツシモの特性を生かし、地元具材やタレにこだわったおにぎり・五平餅店を展開し、ハツシモと具材の双方でPR。桑名駅前には岐阜県農家が運営するハツシモ使用のイートインおにぎり店がある。NHK連続テレビ小説「半分、青い。」で全国区となった五平餅は、味噌だれの美味さをより引き立て、歯切れよく咀嚼できるハツシモが向いている。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域外でのハツシモの知名度向上 ・ハツシモの特性にあった販売促進や商品開発 		

シートNo.	A-19	類型	農林水産物
地域資源名	葉物野菜（小松菜、シュンギク、水菜、ナバナ、ほうれんソウなど）		
市町村名	大垣市、海津市、池田町、神戸町、垂井町、関ヶ原町、安八町、輪之内町		
地域資源となる理由	<p>・西美濃地域は県下有数の穀倉地帯であるが、特に神戸町、輪之内町、海津市などでは施設（ハウス）栽培もさかんで、小松菜や水菜などの一部の葉物野菜においても県下最大の産地を形成している。</p>	【イメージ】	
内 容	<p><小松菜></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスによる周年栽培で、生産量は岐阜県でJAにしみの管内が1位。煮崩れしにくく、どんな料理にも相性が良い。 <p><シュンギク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍋シーズンには欠かせない野菜。岐阜県内はもちろん、東海地方でも有数の産地。 <p><水菜></p> <ul style="list-style-type: none"> ・茎が細くやわらかい品種をハウスで周年栽培。西美濃の水菜は、“生でも食べられる水菜”として人気。 <p><ナバナ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花をつぼみのうちに収穫した、春を告げる野菜。ほのかな香りと独特のほろ苦さが特長。 <p><ホウレンソウ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑黄色野菜の代表格であるホウレンソウ。地元産のホウレンソウを練り込んだうどんも人気商品。 		
事業化への着眼点	<p>B to Bニーズの取り込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西美濃は、上記の通り県内有数の葉物野菜の栽培地域を形成しているが、いわゆる産地としての広範囲な認知には至っていない。このため、西美濃各地の葉物野菜を集め、客先のニーズに応じて鮮度保持、殺菌、ピッキング、パッキング、箱詰め、出荷を一元処理できるセンターを作ることで、販売基盤を強化できる可能性がある。 <p>事業化例：「バラ冷凍野菜シリーズ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺菌、プランチング済みで、急速バラ凍結済みの業務用野菜の大半は中国製であるが国産素材へのニーズは底堅く、冷凍在庫をある程度持つなどして受注に柔軟に対応できれば安定販売の可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・センター新設投資 ・ニーズに合わせた野菜の確保 		

シートNo.	A-20	類型	農林水産物
地域資源名	飛騨牛		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	・「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。」	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 飛騨牛は黒毛和牛のうち、飼養期間が最も長い場所が岐阜県であり、かつ岐阜県内で14か月以上飼育され、肉質が5・4・3等級のものをいう。「飛騨」の名の通り、飛騨地方での飼養頭数が多いものの、西美濃地域でも飛騨牛の登録農家は23事業者存在する。 飛騨牛の誕生は西美濃と深い関わりがあり、大垣市の㈱吉田ハムは1947年に地場産業の発展のため岐阜県産和牛を「飛騨牛」として商標登録し、1988年に飛騨牛銘柄推進協議会を設立して飛騨牛の普及・促進に努めた。㈱吉田ハムは、飛騨牛販売指定店1号店に登録されており、「飛騨牛の名付け親」と呼ばれている。 		
事業化への着眼点	<p>インバウンド観光客のツアとしての活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛騨牛は岐阜の特産品の中でも屈指の人気と知名度を誇り、加工品のレパートリーも多く、近年台湾を中心にアジアでのブランド和牛の人気は高い。 現在インバウンド観光客は、食肉産業が集積する西美濃は素通りして飛騨へ向かっているので、この流れを変えることによって観光・物販の両面で売上増加となる可能性がある。 <p>事業化例：「西美濃飛騨牛インバウンドツアー」</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛騨牛がどのように生産され、消費者のもとに届くのかを理解するツアー。あえて、大規模農家が多い飛騨の牧場ではなく、西美濃地域の小規模な肥育農家に行くことで、飛騨牛がいかに愛情込めて大切に育てられているかを理解してもらい、西美濃の飛騨牛料理指定店で味わってもらう。 外国人対応可能なスタッフを配置し、アジアの旅行代理店に周辺観光と併せた体験型商品として訴求。法改正により牛肉（精肉）の土産持ち帰りについて、予め承認を得ておくことで1人あたり6kgまで可能になることも活用する。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットとするアジアの旅行代理店の選定 観光関係者と畜産関係者の双方による事業化に向けた協議 		

シートNo.	A-21	類型	農林水産物
地域資源名	ブロッコリー		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 米の転作作物として行政・JAにしものともに一押し品目で作付面積も拡大している。また、レシピコンテストが開催されるなど、地域ブランド農産物としての認知度が高まってきた。 	<p>【イメージ】</p> 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市のブロッコリー作付面積は増加傾向にあり、2010年には6.7haだったが、2015年には16.5haと5年で約3倍に増加している。また、JAにしみのでは「にしみのブランド」の一つとして、作付面積の増加に力をいれている。 2013年度には、「地産地消アイデア料理コンテストトレシピ」でブロッコリーのレシピが公募され、ブロッコリーを主要な原料として使う「ブロッコリーのカラフルコロッケ」や、ブロッコリーの芯を使ったきんぴら「ブロけんぴ」など個性豊かなレシピが入賞した。 地域特産の農産物としての認知が、徐々に広がってきている。 		
事業化への着眼点	<p>機能性成分の多さと潜在供給力の大きさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロッコリーは栄養価の高さから「野菜の王様」と呼ばれ、ビタミンA・B1・B2・C、カリウム、リン、ベータカロテン、クロロフィル、抗がん物質スルフォラファン等を含み、特にビタミンCはレモンの2倍も多い。 出荷調整後のブロッコリーの茎は現状は廃棄している部分で、規格外と併せて有効活用できれば、コスト面でも優れた商品化が進む可能性があり、また水田で作りやすいので作付面積は増加傾向にあり、素材としての供給力は大きい。 <p>事業化例：「ブロッコリースープ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロッコリーの茎はやや硬かったり筋張っていたりするので、これを活用する際には通常厚めに皮を剥く必要があるが手間がかかる。 そこで、例えば皮を剥かずにスチームで柔らかくするなどしてペースト化すれば、豊富な栄養も逃さず、廃棄している茎を活用したスープ原料ができる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄される茎部分等を活用する商品開発 生産者、加工事業者、販売事業者、行政による推進体制づくり 		

シートNo.	A-22	類型	農林水産物
地域資源名	ブロッコリーシード・スプラウト		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロッコリーは転作作物として十数年前から栽培され、作付面積も年々増加し地域ブランドとして定着して産地化しつつある。 ・栄養豊富なスーパーフードとして注目されているブロッコリーの種（シード）や発芽（スプラウト）も、安定生産・商品化の可能性が十分ある。 		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市のブロッコリー作付面積は2010年から2015年の5年間で約3倍に増加。また、JAにしみのでは「にしみのブランド」の一つとして力をいれている。 ・そもそも、ブロッコリー 자체も栄養価が高いとされているが、その種（ブロッコリーシード）や発芽（ブロッコリースプラウト）には「スルフォラファン」という肝機能改善に有効なファイトケミカルを豊富に含むいわゆる「スーパーフード」と言われていて、機能性食品やサプリの原料として最近注目されてきている。 ・一方、ブロッコリー産地としては、卸売関係者の認知も広がるほど定着しているが、種子の採種、採種した種子からのもやし育成など、すなわち、種（シード）や発芽（スプラウト）の生産については未着手である。 		
事業化への着眼点	<p>高付加価値化ニーズと商品化ノウハウとの融合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロッコリーは、当地で産地化が進展している唯一の野菜だが、産地間の競合も激化しており高付加価値商品の開発・導入が、産地間競争に打ち勝って生き残るために必要。 ・一方、地元の揖斐川工業は植物生産システム開発・施工では全国区企業であり、特にブロッコリースプラウト生産工場の施工実績や生産ノウハウを有していることから、これらのニーズとシーズの組み合わせが考えられる。 <p>事業化例：「ブロッコリー複合産地化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロッコリーの生産圃場の一部を採種用とすることで、ブロッコリーシードは確保でき、さらに、揖斐川工業の有するノウハウを生かせば、ブロッコリースプラウトの生産も可能。 ・ブロッコリー産地としては、シードやスプラウト生産まで行うことで他産地に比して優位性が打ち出せる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生産・加工・販売関係者等による合意形成（プロジェクト化） ・事業主体の確立（生産工場新設に向けた設備投資が必要） 		

シートNo.	A-23	類型	農林水産物	
地域資源名	真桑瓜			
市町村名	本巣市			
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	<p>【イメージ】</p> 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> 本巣市真正地区（旧真桑村）が原産で、その村名にちなんで「真桑瓜」と命名されたと言われており、1575年に織田信長が朝廷に献上したとの記録もある。古くからこの地の特産とされ、岐阜県の飛騨美濃伝統野菜にも指定されている。 この地の風土に合う作物で、西瓜やメロンと比べても極めて作りやすく、7月下旬～8月上旬の最も暑い時期に大量の実をつける。果実は、米俵のような円柱形で黄色の果皮に緑の筋が10本ついていて見た目にも可愛らしく、1～2人で食するのにはほどよいサイズで、香りがとても良くほんのりとした甘さとさっぱりした食感が特徴。 一方、昨今の糖度や濃厚な旨み重視のトレンドからはやや外れていて、残念ながら自家消費＋近隣直売所での販売される程度にとどまっている。 しかしながら、岐阜農林高校生が香りのよさを生かして開発した「真桑瓜アイス」がヒット商品となり、近隣直売所では核家族化に適したサイズ感と甘さ控えめのヘルシー感が見直されて人気上昇の兆しがあるなど、商品開発やPRの方法を工夫すれば、ヒット商品となる可能性を秘めている。 			
事業化への着眼点	<p>香りを生かした商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 供給余力はあるが、商品開発はこれから。香りが秀逸なことを生かした商品開発が、事業化のポイント。甘さ控えめで瑞々しくヘルシーで、1～2人世帯にもフィットするサイズ感、可愛い見た目と歴史性といった特長も併せてPRできるような商品性が訴求できれば、素材产地としての優位性が生かせる。 <p>事業化例：「ヘルシーメロン」</p> <ul style="list-style-type: none"> 真桑瓜を若干追熟保管することで、芳香をさらに強めるとともに、糖度をプリンスマロン並み（10度程度）まで上げることを前提に、非破壊検査により香りと糖度を測定して一定水準以上の成果に対して「ヘルシーメロン」とのネーミングで拡販する。 青果に加え、セミドライ商品開発の可能性もある。 			
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 追熟および検査体制の構築 需要増に対応する生産者の確保 			

シートNo.	A-24	類型	農林水産物
地域資源名	有機栽培野菜・ハーブ		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市上石津町の三重県境に近いエリアでは、人工的な汚染の要素が少なく、清冽な沢水が年中流れ、水はけの良い肥沃な段々畑が広がり、有機農業を志す方が多く移住してきている。 多品目の野菜、ハーブ等が栽培されていて、有機野菜の流通業者やレストランに、岐阜県内では白川町に次ぐ有機栽培者の集積地として認知されつつある。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市上石津町南端の時地区は、三重県境に近い中山間地。 過去20年で30名以上がクリーンで有機農業に向いている土地、水、受入態勢などを気に入って、移り住んできた結果、地区全体として野菜やハーブの有機栽培が盛んとなっている。 例えば、約20年前に移住してきた地区の中心的なある農家は、家族経営ながら野菜とハーブをそれぞれ50種類以上生産し、地元を中心に販売しているほか、ハーブの摘み取りやハーブティーづくりやハンドクラフトの体験農園も併営している。 こうした体験農園が複数あって、観光客を誘引するとともに、移住者を呼び込むツールになっていて、さらに有機栽培の農産物やハーブを求めるバイヤーも訪れるようになってきている。 しかしながら、こうした有機栽培をしている農業者の取り組みは単発的で、地区としてプロデュースするには至っていない。 		
事業化への着眼点	<p>有機栽培野菜・ハーブの共同活用による地域ブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光農園や体験農園は観光誘客には効果的であるが、農家単位の取り組みとなるため、有機野菜やハーブの産地として認知を広めていくには、出荷や加工品開発を共同で行う必要がある。 また、消費地からのアクセス性がやや悪いので、現在農産物の販売の大半が地元や観光客向けにとどまっているが、共同活用を進めることで農産物・加工品の輸送コストが下がり、供給力が高まって販路が広げやすくなる可能性がある。 <p>事業化例：「大垣市公設地方卸売市場との連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該地区に出荷拠点を設けて、大垣市公設地方卸売市場の開場日に保冷車を走らせれば、輸送の手間やコストの大幅削減が期待でき、同市場の施設（冷蔵・冷凍・加工）や名古屋中央市場との市場便の活用も可能となり、安定供給がしやすくなる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 対象地域での合意形成 外部対応窓口の一本化 		

シートNo.	A－25	類型	農林水産物
地域資源名	養殖魚（鮎、ニジマス）		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 世界農業遺産に「清流長良川の鮎」が登録され、「水の都」大垣の地下水を活用した伝統ある地場産業。 また、鮎養殖は全国屈指の生産規模であり、ニジマス養殖は小型魚に特化した生産をするなど特色がある。 	<p>【イメージ】</p>	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 「水の都」大垣では、豊富できれいな地下水を活用した淡水魚の養殖が盛んである。 このうち、墨俣町にある森養魚場は鮎養殖では全国トップの生産量があり、矢道町の石井淡水ではあえて大きくせず小型での出荷に絞って全国出荷しており、上石津町の時山養魚場では釣り体験用の魚を養殖している。 また、十六町にある十六兆は、自ら養殖まで手掛ける鮎料理専門店として、名古屋からの固定客もある。 このうち、石井淡水と十六兆は、国の6次産業化の認定も得て、加工品開発にも積極的に取り組んでいる。 「清流長良川の鮎」の世界遺産認定を契機に、当地の淡水魚養殖も注目度が増し、さらに商品開発等の活発化が見込まれる。 		
事業化への着眼点	<p>高度冷凍技術の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年の生鮮食品の冷凍技術の進化は目覚ましく、解凍後の生食可能な水準にある。 一部の漁協には高度冷凍設備が導入されているが、生食ニーズが小さい川魚では、解凍品質が良く量産可能なバラ凍結可能な設備の導入例はほとんどない。 一方、大垣市公設地方卸売市場内にバラ凍結可能な魚介類用の設備導入の構想があり、これが実現すれば、鮮度保持かつ衛生管理しやすい養殖の利点を發揮して、全国をリードする最高品質の鮎、ニジマス冷凍商品化が可能となる。 <p>事業化例：「高品質冷凍鮎・ニジマスの輸出」</p> <ul style="list-style-type: none"> 淡水魚の輸出はほとんどなく、中でも高品位な冷凍ものは皆無と思われる中、成功すれば、他の追随を許さぬ商品となる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 需要に応じた供給力の確保 地元からの認知および需要の喚起 		

シートNo.	A-26	類型	農林水産物
地域資源名	ヨモギ		
市町村名	揖斐川町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	<p>【イメージ】</p> 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 伊吹山の東に位置する揖斐川町春日地区には様々な種類の薬草が自生しており、「伊吹百草」と呼ばれ親しまれてきた。地区内の「春日モリモリ村」には薬草風呂があり、多くの薬草が販売されている。伊吹百草の歴史は大変古くて、百人一首の一つ、藤原実方朝臣の和歌に登場し、歌川広重の描いた街道図「中山道柏原宿」にも登場する。また、伊吹山麓には織田信長が開いた薬草園があったとされており、現在その再生に向けた動きもある。 中でもヨモギは、2011年から優良品種の選抜を経て継続的に栽培しており、加工品を含めて「揖斐川よもぎ」としてブランド化されている。現在ヨモギは約9割が中国産となっているため、数少ない国産であること・高品質で香り高いことが評価されて受注が急増しており、中国産の倍以上の単価だが生産が必要に応じ切れていない。 		
事業化への着眼点	<p>国産薬草の需要増大と伊吹山周辺における薬草栽培適性</p> <ul style="list-style-type: none"> ヨモギは、豊富な食物纖維や発ガンの抑制、浄血作用など効果は多岐にわたり、近年、草餅や入浴剤だけでなく、機能性食材、サプリ原料、化粧品素材等として注目されており、高品質な国産ヨモギは売り手市場となっている。一方、他地域でも春日地区の栽培方法の導入を試みてもなかなか上手くいかず、逆に伊吹山周辺でのヨモギをはじめとする薬草の栽培適性が改めて認識されている（古来、伊吹山は薬草の山とも呼ばれている）。 <p>事業化例：「国産ヨモギのよもぎ蒸し」</p> <ul style="list-style-type: none"> よもぎ蒸しとは韓国で約600年の歴史がある健康法で、近年日本にも広がっている。生理不順やストレス、冷え性等の解消や美肌効果が期待されており女性に人気がある。国産の揖斐川よもぎを使用することで、安全・安心を利用者に訴求し、よもぎ蒸しで観光客を誘引して関連商品の拡販も図る。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ヨモギの生産量増大、生産担い手の育成 「揖斐川よもぎ」の知名度向上、ストーリーの構築 		

シートNo.	A-27	類型	農林水産物
地域資源名	レンゲ蜂蜜		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県の花でもあるレンゲは、稲作の元肥として大垣市など西濃を中心に現在も利用されており、レンゲから取れた蜂蜜は地域資源と言える。 大垣市には今も、地元のレンゲのみからとった蜂蜜を製造・販売している養蜂業者がある。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 国内で消費される蜂蜜の9割は、中国をはじめとする海外産であり、国産は希少。また、レンゲは県の花でもあり、レンゲ蜂蜜の国内生産量トップは岐阜県である。レンゲ蜂蜜の結晶は他のはちみつと比べてなめらかなのでそのままでも食べやすい。 かつては、レンゲ蜂蜜は国産を代表する蜂蜜として広く消費されていて、昔かられんげ栽培が最も盛んで日本の中西部にある岐阜県西濃は、蜂蜜の生産のみならず流通面でも中心的な地域である。 しかしながら、近年国産蜂蜜の生産および流通量は激減していて、特にれんげ蜂蜜は入手困難な高級品として価格が高騰し、地元での消費は細っている。 		
事業化への着眼点	<p>地元での商品開発によるブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の花であるレンゲから採取したことに加え、国内消費量の1割程度しか国産ではないことから地域資源として価値があるが、現在は地域で活用されていないことから、逆に地元でブランド化を図れる可能性がある。 具体的には、地元で収穫・精製する人手の確保、商品戦略の立案をすることを前提に、希少価値を生かしたいわゆる「スーパーフード」化を図る。 <p>事業化例：「レンゲ生蜂蜜」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生はちみつ」と通常の蜂蜜との違いは加熱処理がされているかどうかで、日本スーパーフード協会によると「スーパーフード」に分類される。 通常の延伸分離機は使えず手作業になるため、収穫・精製作業が非常に大変であるが、高価での販売が見込まれる。 国産レンゲ蜂蜜自体が、既に希少であるがさらにレンゲ生蜂蜜となると、国内では競合はないので有利販売の可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 生蜂蜜の生産方法の確立 地元での商品開発 		

シートNo.	A-28	類型	農林水産物
地域資源名	ワサビ		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 通常ワサビは冷涼な山中の畑で作られるが、大垣市には一定の水温で大量に湧き出すミネラル豊富な地下水のおかげで多数の自噴井があり、大垣のワサビは住宅地で栽培されている。 地下水温が約14°Cとワサビの生長が最も促進される温度帯よりやや高く、長野県や静岡県と比べて半年以上余分に時間がかかるが、これが幸いして緻密で固く香りの良いワサビが育つ。 地下水温に比例して病虫害リスクもやや高まる中、工夫を積み重ねて無農薬・無肥料で栽培されている。 しかし、土地・水量の制約や手間の問題から作付増加は難しい。 ワサビは、抗菌作用や血栓予防等機能性に優れた農産物であり、昔から薬味として利用されるなど「体に良い」というイメージも既に形成されていて、近年ではWASABIとして海外でも認知されている。また、大垣では国内産ワサビの最高品種「真妻」の生産もしており、プロの評価も高い。 		
事業化への着眼点	<p>ワサビ若葉の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ワサビは、価値が高い根茎の生長・収穫量増大を期して栽培されるが、根茎の生長には数年を要し、大垣では大産地より半年余分にかかる。一方、ワサビの葉は、生育が早く根茎と同様の機能性成分の含有が知られているが、一部を加工品などに使うだけで大部分は廃棄されている。 しかし、ワサビの若葉はサラダ素材として有用との評価もあり、ワサビの若葉なら定植後1~2ヶ月で収穫・出荷ができることから、若葉に焦点を絞ったワサビ生産事業化の可能性があり、都市型立地の大垣のワサビは、若葉の活用には有利である。 <p>事業化例：「サラダワサビ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワサビの若葉は摘めば摘むほど脇芽からの発芽が促進され、ほぼ無尽蔵に収穫でき、若葉であれば柔らかくて生食可能、農薬・肥料を使用しない安心な栽培方法であり、体に良い機能成分が豊富で、ピリッとシャキッとした食感も魅力的。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 生産拡大に向けた新たな担い手の確保 他のわさび産地との差別化戦略 		

4. 地域資源発掘シート

B-29~37 地域產品(農林水產物以外)【9】

29 烏骨鶏スイーツ	…36	30 ガラス瓶	…37	31 木柵	…38
32サイクルトレイン(養老鉄道)	…39	33 地酒	…40	34 大理石	…41
35 のこり染め	…42	36 ひょうたん	…43	37 水まんじゅう	…44

シートNo.	B-29	類型	地域産品（農林水産物以外）
地域資源名	烏骨鶏スイーツ		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市内に烏骨鶏を使った商品を提供する事業者があり、烏骨鶏＝大垣の知名度を高まりつつある。 なお、大垣市内の烏骨鶏商品販売事業者が、岐阜県内企業数社と協力し、7月21日を烏骨鶏の日と制定した。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 烏骨鶏は、烏骨（黒い骨）という名が示す通り、皮膚、内臓、骨に到るまで黒色。 羽毛は白と黒があり、成鳥でもヒヨコ同様に綿毛。 栄養学的に優れた組成を持ちまた美味であることから、一般的な鶏肉と比較して高価格で取引されている。 卵も同様に人気が高く、産卵数も週に1個程度と少ないことから、鶏卵と比較して非常に高価で1個500円前後が相場。 なお、大垣市内で烏骨鶏に関する商品を製造販売している烏骨鶏本舗は、香川県で飼育された烏骨鶏を使用しているが、地元で生産協力者を探している。 		
事業化への着眼点	<p>地元素材化と健康志向化の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 烏骨鶏本舗の既存商品は、スイーツとしての完成度の高さと烏骨鶏の語感が有する希少価値により認知されているが、肝心な烏骨鶏をはじめ、主要素材が地元産ではなく、砂糖類や添加物の使用面では一般的であり、この点を改善して素材使用面で地元産と健康配慮を徹底することで、ブランド価値がさらに高まる可能性がある。 <p>事業化例：「ぎふ烏骨鶏スイーツ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 烏骨鶏はもちろん、主要素材はすべて岐阜県産とすることに加え、健康志向が高い富裕層への訴求力を高めるため、着色料、保存料、砂糖、水飴、甘味料などを一切使用せず、甘藷や果実、甘酒など、天然素材由来の自然な甘さや色合いを売り込むハイエンド商品を開発し、「ぎふ烏骨鶏スイーツ」としてブランド化する。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県産の新商品用高品質素材の安定確保 烏骨鶏飼育協力農場の確保 想定販売先の意見を反映できる新商品開発体制の構築 		

シートNo.	B-30	類型	地域産品（農林水産物以外）
地域資源名	ガラス壜		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国第3位のガラス壜生産量を有する製びんメーカーが、この地に本社および主力工場を置いている。 ・ガラス壜メーカーが発展してきたプロセスは、地場産業の発展と強く関係しており、ガラス壜は地域の風土に根差している。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・この地に、大手ガラス壜メーカーが立地したのは、揖斐川での水力発電による電力と金生山の石灰石などを活用した重化学工業が立地し、薬品などを入れる容器として耐酸性の高いガラス壜が大量に必要であったからである。 ・まさに、地域資源を活用した地場産業の発展に不可欠な資材として製造が始まったという背景があって、地域の風土に深く根ざしているからこそ、その後も安定的に発展・成長し、今やガラス壜の生産量では全国3位となっている。 ・ペットボトル等に軸足を置く同業者も多い中で、ガラス壜製造に専念して技術力を高めていて、ガラス壜の全国シェアは今も次第に高まりつつある。 		
事業化への着眼点	<p>インテリアとなる食品容器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラス壜はリサイクル性が高いが、特に食品容器の場合などはあつという間に使用済みとなるので、何かもったいなさや罪悪感を覚えることが多い。 ・そこで、例えば食べきりサイズのプリンの容器を、使用後に洗ってまた使いたくなるおしゃれで実用的なデザインにすれば、釜飯の容器のような付加価値が出せる可能性がある。 <p>事業化例：「スクリューキャップ付き壜プリン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思わず実用的でかわいいインテリアになりそうな壜に、スクリューキャップをつけてプリンを入れれば、食べ終わってから洗って使う人が多くなり、そうなるとガラス容器特有の罪悪感や負担感が軽くなって、売れ行きも良くなる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実用性とカッコよさを両立させるデザイン ・小ロットの受注対応 ・食品容器としての安全性・経済性 		

シートNo.	B-3 1	類型	地域産品（農林水産物以外）
地域資源名	木枡		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市は、「木枡」の生産シェアにおいて全国の8割以上を占める日本一の産地。 枡づくりは、かつて木曽ヒノキの集散地であった名古屋で盛んに行われていたが、明治の中頃、職人の一人が奉公を終えて大垣に戻ったことから、大垣でも枡がつくられるようになった。 終戦後は、焼野原から木枡づくりがいち早く復興し、他産地が消滅する中、次第にシェアを高めてきた。 大垣市では、5事業者合わせて年200万個の木枡を生産している。 計量器やイベント用の縁起品に加え、木枡は新たな用途を常に開発しながら作られ続けている。 クラウドファンディングを活用してLEDで光る枡『光枡』を作成したり、市内の飲食店が持ち帰り用の皿に木枡を採用したりするなど、異分野との共同開発も行われている。 		
事業化への着眼点	<p>単体使用から組み合わせ使用へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 計量器や縁起物という従来の主力用途が頭打ちとなり、様々な用途の木枡が既に商品化されている中、木枡を単体でなく複数組み合わせて使う商品でニーズを喚起できる可能性がある。 例えば、大きさの異なる2つの木枡を上下に上手く組み合わせることで蓋付きの箱になる。箱としての木枡の用途は、中に収納するモノに応じて無限にあり、用途によっては小さな木枡を間仕切りとして箱の中で組み合わせることもできる。 <p>事業化例：「木枡お宝箱」</p> <ul style="list-style-type: none"> 木升で箱を作ることで、保温、調湿、保護、防塵の効果が期待できることから、時計、宝飾品、家宝、印鑑、写真、手紙などの大切なものを格納するお宝箱に相応しい箱となり得る。 檜の風合いや当地の染色整理技術を生かして内装を施したり、当地の表面加工技術を生かして外観を流麗に仕上げたりすることも考えられ、さらに素材を桐とすることで、軽さや高級感を訴求できる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> デザイナー、販売事業者、加工事業者等とのコラボ商品開発 試作開発後の商品化テスト 		

シートNo.	B-3 2	類型	インフラ		
地域資源名	サイクルトレイン（養老鉄道）				
市町村名	大垣市、海津市、揖斐川町、池田町、神戸町、養老町				
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「自転車を分解せずに鉄道車両へ乗車できる」「行動範囲が広がる」のが魅力のサイクルトレイン。 サイクルトレインは県内で唯一であり、全国的にも極めて稀であり、自転車好き、鉄道好き、小旅行好き等へのアピール度大。 増加傾向にあるサイクリスト誘客の呼び水としても期待できる。 	【イメージ】			
内 容	<ul style="list-style-type: none"> サイクルトレインは、自宅や出先などから乗ってきた自転車を電車内に持ち込み、目的地まで行けるサービス。目的地での行動範囲が広がり健康と環境にもいいことから、電車の利用客の増加に結びつくことが期待されている。 また、養老鉄道沿線には、池田山山麓や養老山脈山麓などサイクリングに適した場所が多く、サイクルトレインは、観光客誘客に向けた取り組みとしても期待されている。 健康志向の高まりで、マラソン、ジョギングとともに自転車愛好家が近年増加していることも追い風である。 				
事業化への着眼点	<p>レンタサイクル事業とのコラボ</p> <ul style="list-style-type: none"> 平坦な土地に観光資源が点在する西美濃は、自転車での観光との相性が良いが、西美濃全域を視野に入れると、レンタサイクルのみではやや力不足である。 そこで、レンタサイクル利用者にもサイクルトレインを気軽に活用して頂けるよう、レンタサイクル利用者で養老鉄道の一日乗車券の購入者には、自転車持ち込み料を無料とするなどの新たな企画商品を、関係者が協議して開発・販売することにより、相乗効果が生まれる可能性がある。 <p>事業化例：「西美濃サイクルトレイン手ぶら切符」</p> <ul style="list-style-type: none"> 養老鉄道とレンタサイクル事業者にJR東海も交えて、名古屋等のJR沿線からの大垣往復に、養老鉄道の一日乗車券、自転車持込無料券、レンタサイクル料をセットした企画切符を作成販売することで、西美濃エリアへの誘客を図る。 JR東海の集客力が活用でき、レンタサイクルをベースとすることで手ぶらで気軽に活用していただけ、西美濃広域への観光誘客に役立つ可能性がある。 				
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業者間の連携 レンタサイクルの確保・整備 				

シートNo.	B-33	類型	地域産品（農林水産物以外）		
地域資源名	地酒				
市町村名	西美濃全域				
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 (岐阜県の酒もしくは酒蔵) 	<p>【イメージ】</p> 			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 良質な水と米に恵まれ、人口密度が昔から高く、商業も発達していた西美濃地域は、酒造が有力な地場産業として根付いており、今でも酒蔵が各地にある。 特に、豊かな地下水のおかげで自噴井がたくさんある大垣市は「水の都」と呼ばれており、酒蔵ではその水を活かして日本酒造りを行っている。 大垣市内の酒蔵は、三輪酒造・武内酒造・渡辺酒造の3社存在する。三輪酒造は180年以上の歴史を有し、にごり純米酒「白川郷」などのブランドがある。また海外に進出しており、国内外様々な賞を受賞している。武内酒造は270年以上の歴史を持ち、毎年春先に行っている「酒蔵開放」のイベントは大変賑わう。渡辺酒造は大垣でしか作り出せない味を追求していた、現在女性杜氏が活躍している。 もちろん、大垣市だけではなく、西美濃地域には個性的な酒蔵が多数存在しており、見学や試飲等も頻繁に行われている。 				
事業化への着眼点	<p>体験型観光への組み込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣市は木舟の生産シェア8割を占め日本一であり、市内には舟づくり体験ができる工房もあるため、自分で作った舟に大垣の水を活かした日本酒を入れて飲むことができる。 これと、個性的な酒蔵の見学・試飲を組み合わせた体験型観光は他では真似ができない強みが出せる可能性がある。 <p>事業化例：「セミオーダー酒、承り舟」</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣市内の工房で舟づくりを楽しんでもらい、その後3つの酒蔵の酒蔵見学をして、自分の舟で日本酒を試飲してもらう。 まさに大垣に来ないとできない体験であり、ストーリーもあるため、観光客にPRしやすい。 そして、最も気に入った酒をオーダーしてもらい、次の新酒の時期に自宅に届く仕組みにすることで、リピート注文を促す。 				
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 酒蔵間の調整 酒蔵の受け入れ態勢整備 				

シートNo.	B-34	類型	地域産品（農林水産物以外）
地域資源名	大理石		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県赤坂の金生山で産出される「西濃大理石」。 紅更紗、錦紋黄、五色石は日本唯一の多色原石で、世界的に大変貴重なものである。 現在では、建築材が大部分であるが、置物や花器、装身具などに加工されるものもある。 磨くと美しい光沢がため、彫刻や内装材として多用されている。 現在、製品の素材自体はコスト等の関係で、大半がイタリア等から輸入しているが、製品化の技術は継承されていて、当地で大理石製品の製造が行われている。 		
事業化への着眼点	<p>粉体化して吹き付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> 重いので切り出し、研磨、搬送、施工に特殊な機器が必要なので高コストとなる、というのが大理石の欠点である。 そこで、大理石を最初に様々な粒度の粉体にし、それを吹き付けてから現場で研磨して仕上げる方式を導入することで、各プロセスで特殊な機器が不要となり、大幅なコストダウンと軽量化によって、用途が格段に増大する可能性がある。 <p>事業化例：「大理石仕上げ工法」</p> <ul style="list-style-type: none"> コンクリートやアスファルト等の基材の上に、粉体化した大理石を吹き付けてから研磨する工法を開発する。 イメージとしては、樹脂系仕上げ剤のリノリウムのようなものであるが、大理石入りの方が耐摩耗性が高く、鏡面仕上げ的な平滑度も高い仕上がりにできる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 微細な粒形への粉体化技術 吹き付けする際の合わせる素材の選定 吹き付け後の研磨技術 		

シートNo.	B-35	類型	地域産品（農林水産物以外）
地域資源名	のこり染め		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市内の染色整理事業者は、100年以上蓄積した技術力を生かし、当地で発生した規格外農産物等を染色原料とする「のこり染め」を開発した。 これは素材面からも技術面からも地域資源の活用と言える技術である 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市内には、100年以上当地の繊維産業を支えてきた技術力の高い染色整理事業者がある。 草木染のような手法をベースに、岐阜県産業技術センターと天然色素使用に伴う変色・色落ち防止技術を高め、縫製経験のある女性社員を中心に試作を重ね、2011年に商品化した。 不安定な天然素材由来の染色原料を使いこなす染色技術力、様々な天然素材の生地表面を仕上げる整理技術力、染めた素材を商品化するための縫製技術力が、いずれも高い水準で必要であるため、他社の追随を許さないオンリーワン商品である。 現在は、メルトン、ツイード、リネン、帆布といった天然繊維の生地に、11種類の天然素材由来の染色加工が可能。 自社開発した定番商品の他、素材持込みによるセミオーダーにも取り組んでおり、特に規格外野菜・果樹の活用を通じた地域の6次産業化にも意欲的である。 		
事業化への着眼点	<p>社内ブランドから地域ブランドへ</p> <ul style="list-style-type: none"> 少量生産ながら商品開発して販売しているベースが既にある。 これを生かして西美濃の特長的な農産物の規格外品等を染色原料とする商品シリーズを、原料供給者とともに開発することで、新たな地域ブランドを立ち上げしやすい。 原料として、規格外野菜・摘果果樹や加工残渣等の染色原料と、ツイード、リネン、帆布などの天然繊維の生地、さらに「エア一かおる」のような他社の整理技術とのコラボも考えられる。 <p>事業化例：「西美濃のこり染め」</p> <ul style="list-style-type: none"> 西美濃の農業者、食品加工事業者等とともに、規格外野菜・果樹や加工残渣を染色原料とする布製品を開発し、開発した布製品の他、染色原料となった野菜・果樹やその加工品との組み合わせも含め、「西美濃のこり染め」ブランドとして販売する。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 染色原料（規格外野菜・果樹、加工残渣等）の安定確保 ブランドデザイン、プロモーション 量産化技術の確立 		

シートNo.	B-3 6	類型	地域産品（農林水産物以外）
地域資源名	ひょうたん		
市町村名	養老町		
地域資源となる理由	・「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 養老町では古くからひょうたんが作られている。最大で2mにもなるものから、手に乗るほどの小さななものまであり、農産物由来の加工品なため、すべて一点ものであり、ほとんど機械化されていないことから、手づくり感に満ちているのが特徴。 ひょうたんは、災厄をのがれ福を招くお守りとしても有名で、岐阜県の郷土工芸品ともなっている。 同町の養老の滝には、「孝子伝説」と言われる古くから伝わる逸話がある。老いた父親のために懸命に働いていた木こりの「源丞内」が、ある日養老の山奥で見つけた滝の水をひょうたんに汲んだところ、滝の水がお酒に変わり、その酒の力で父親がたちどころに若返ってしまったというもの。 この逸話にいたく感激された元正天皇が、実際に養老を訪れ、元号を「養老」に改められたという史実もあり、養老町にとってひょうたんはまさにシンボルとなっている。 観光客向けの伝統的な土産品にとどまっているため、生産・販売量は近年伸び悩んでいる。 		
事業化への着眼点	<p>「パワーインテリア」としての商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでひょうたんは、有名な「孝子伝説」のイメージが強く、液体を入れる容器にも使えることを前提とした土産物としての商品が多いが、洗浄しにくさや持ち運びのしにくさを冷静に考えれば、むしろ容器としての機能を離れ、吉兆をもたらすインテリアや魔除けなどを前提とした商品開発の可能性がある。 <p>事業化例：「養老長寿ひょうたん」</p> <ul style="list-style-type: none"> これまであまり商品化していない小型のひょうたんを活用し、養老年間に活躍した藤原不比等ゆかりの寺社とタイアップし、「無病息災」のお札入りのお守りを、敬老の日等のご両親へのプレゼントとして開発できる可能性がある。 養老の語感や歴史性をフルに發揮することができる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> タイアップする寺社との協議 量産に向けた原材料確保と体制整備 		

シートNo.	B-3 7	類型	地域産品（農林水産物以外）
地域資源名	水まんじゅう		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<p>・大垣市を代表する夏の風物詩として、大垣市民はもとより観光客にも広く知られており、様々な地元の食材との組み合わせで、新たな地域商品のベースにもなる。</p>	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・水まんじゅうは葛澱粉で餡を包んで水で冷やした水菓子。 ・明治30年頃、菓子屋上田屋文七が、水に浸けておいても流れないくず粉で包むことを考え出し、蕨粉の適量を葛澱粉に混ぜて水まんじゅうを作ったのがはじまり。 ・1995年、大手製パン会社が「水まんじゅう」の商標登録を特許庁に出願したが、市内の業者は「対策委員会」を設け、街を挙げて異議を申立て名物の名を守った。 ・現在は、大垣のみならず西美濃を代表する水菓子として広く知られており、また「水の都」大垣に相応しい夏の風物詩として、店頭での販売風景が観光資源にもなっている。 		
事業化への着眼点	<p>地域の風物詩を地域のソウルフードへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水まんじゅうは「水の都」大垣のイメージを表象する水菓子として広く知られ、市内の多くの店でも提供されていて、地域の夏の風物詩として菓子店店頭での販売風景が毎年話題となる。 ・反面、素材の地元感が薄いこと、バリエーションが少ないとこと、日持ちが短くギフトに不向きであることから、住民が大量消費してそれが観光客の呼び水にもなる、東濃の栗菓子や茨城県の干し芋のような地域のソウルフードには至っていないので、逆にまだ伸びしろがある。 <p>事業化例：「大垣フルーツ水まんじゅう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元のフルーツ等（梨、イチゴ、ブルーベリー、柿、真桑瓜、茶、甘藷等）を使用し、贈答可能な日持ちがするように製法と包装を工夫し、大垣のボトル水を添えるなど食べ方提案を含めた基準を満たすものを「大垣フルーツ水まんじゅう」と認定してPRする。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・水まんじゅうに使用する地元のフルーツ等の安定確保 ・ギフト利用を可能にする消費期限の長期化 ・地域ブランド化に向けた関係者の協議 		

4. 地域資源発掘シート

C-38~47 インフラ【10】

38いび森林資源活用センター	…46	39大垣市公設地方卸売市場	…47	40大規模冷風乾燥施設	…48
41高速道路網	…49	42食品委託加工施設	…50	43堤防道路	…51
44鉄道集客力	…52	45地下水	…53	46道の駅・直売所	…54
47山のふもと水さらら	…55				

シートNo.	C-38	類型	インフラ
地域資源名	いび森林資源活用センター		
市町村名	揖斐川町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 揖斐川町の91.1%が森林で、同町において木材関連産業で発展した経緯があり、今も最も身近な地域資源である。 センターは森林活用拠点として、揖斐川町のみならず大垣市上石津地区などを含む周辺市町村の利用もあり、森林事業者に不可欠なインフラとなっている。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> いび森林資源活用センター協同組合は、揖斐郡内11社および揖斐郡森林組合によって設立された組合で、地元住民が所有する森林の手入れと管理を行い、森林の財産価値を向上させることを目的として設立された。 木材の6次産業化を目指し、生産、加工、流通・販売を一貫して行っている。 管理の過程で発生する間伐材は、センターにて木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）として生産し、温泉施設やストーブ・ボイラーの燃料として販売している。 岐阜県内においては、同種の施設は恵那市にあるのみで、揖斐川町のみならず、西美濃地域全域の森林資源活用に関するセンター機能を有している。 		
インフラの活用例	<p>バイオマス発電事業とのコラボレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）を使用し発電するバイオマス発電は、再生可能エネルギーのひとつで、温室効果ガスを排出せず重要な低炭素の国産エネルギー源とされている。 既に各地で導入が進みつつあるが、良質の発電用チップの安定確保が課題となってきていて、この点では既にチップ生産しているセンターを活用した事業展開には優位性がある。 <p>事業化例：「広葉樹チップを活用した小型バイオマス発電事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、センターでは広葉樹チップは引き取り前提での無償供与としているので、これを事業化できれば効果が大きい。 岐阜県瑞浪市で本年夏から事業化予定であるが、小型バイオマス発電の事業構築上最も重要な燃料チップの確保が当地では既にできていることを勘案すれば、実現可能性は高いと考えられる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> バイオマス発電関連施設の建設 同施設のメンテナンス 		

シートNo.	C-39	類型	インフラ
地域資源名	大垣市公設地方卸売市場		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<p>・長年に亘り大垣市を含む西美濃地域を流通圏とし、生鮮食品等取引等の流通拠点として機能していることに加えて、立地や施設の使い良さを生かした新たな加工物流拠点化が可能である。</p>		
【イメージ】			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市にある公設の地方卸売市場。 ・大垣市のほか、海津市、不破郡、安八郡、養老郡、揖斐郡、2市4郡の38万人を流通圏とし、生鮮食料品等取引の適正化及び流通の円滑化を図り、市民生活の安定に役立てるため開場しており、その周辺市町村との流通需要にも対応している。 ・開設は1974年11月。開設者は大垣市で、卸売事業者は大垣水産青果株。 ・公設卸売市場で卸売を行っている大垣水産青果株は、昭和49年11月に丸魚大垣水産株、大垣魚市場株、大垣青果市場株、大垣海産市場株の4社が合併しできた会社。 ・川上から川下へ大量の商品を提供し続けるのではなく、まだあまり知られていない「岐阜のいいモノ」などを取り入れるなど、地域に根差した市場運営を行っている。 ・卸売市場に求められる役割は、商流の変化とともに変わりつつある。一方で、大垣市は地理的に関東市場と関西市場の中間、名古屋市場へは至近に立地し、大垣ICにも近く、各市場へのアクセス面からみると、高いポテンシャルが秘められている。 		
インフラの活用例	<p>地の利とインフラの余力を生かした加工物流拠点化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品等取引等の流通拠点として長年の実績があり、三大都市圏へのアクセスが容易である事から、加工物流拠点として活用が考えられる。例えば、名古屋の日比野市場へは開場日に市場便という保冷車を往復させているが、この積載余力が十分あり、加工品も含めた商材の混載流通が可能である。また、深井戸を活用した飲料水供給システムや専用の合併浄化槽システムなどの優れたインフラを活用する事で低コスト化も可能。 <p>事業化例：「漁港と連携した産直加工物流」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮を回遊する魚の沖合漁業やマグロやタイの養殖では日本屈指の串本漁港と連携して、安定的に引き取って三枚下ろし、冷凍、乾燥、加熱などの加工を市場で行うことで市場の収益となり、加工商材も増える。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市公設地方卸売市場で働く人材の確保 ・トイレなどの老朽化した一部施設の改修 		

シートNo.	C-40	類型	インフラ
地域資源名	大規模冷風乾燥施設		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市公設地方卸売市場内で2019年3月に稼働した食品加工施設の主力機器として、大規模冷風乾燥施設があり、高度衛生管理が可能な食品加工施設内に設置されている。 ・これを使えば、衛生管理が不十分な施設の加工では困難な乾燥加工品質の飛躍的な向上が見込まれ、輸出も視野にした商品化が可能となる。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本来は、干し芋加工の本場で開発された量産対応可能な乾燥施設であり、通常の稼働温度帯は16～18℃と極めて低温度帯であり、雑菌の繁殖を抑えながら色、香り、風合いなどの乾燥による品質低下を小さくすることが可能であり、結果的に高品質な仕上がりになり、かつ、干し芋であれば1日150kg製造可能な量産能力もある。 ・もちろん、干し芋だけでなく、例えば花（ハーブ類）、魚（干物には最適な温度帯）など幅広い素材の乾燥に使用可能であり、さらにヒーターを特注で付加させているため、例えば果物、野菜類の乾燥も可能な仕様となっている。 ・食品加工施設と同様、地域の素材生産者とのコラボ商品開発や乾燥加工受託も積極的に取り組む予定となっている。 		
インフラの活用例	<p>農業生産者（団体）との乾燥加工品の共同開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設の運営者も、地域の素材提供者とのコラボを望んでおり、地域内での密接な協力関係構築が可能である。これまで農業生産者による乾燥加工は天日干しが多く、衛生管理が低水準にとどまったり、乾燥加工作業が重労働となったりすることがネックとなっていたので、この施設を活用することで高品質化、広域商圏化、作業負担の軽減などにつながる。 <p>事業化例：「カモミールの乾燥受託」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣市が大垣市薬草組合を介して推進しているカモミールの契約栽培において、収穫後の乾燥工程の作業負担が非常に大きいことが、現状ではカモミール栽培推進上のネックとなっている。 ・一方、この大型冷風乾燥施設は低温乾燥（16～18℃）であるため、揮発しやすい精油分や香り成分保持に有利であり、現状の天日乾燥から切替えることで、品質向上と作業負担軽減となる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当該施設の周知 ・素材生産者との協議 		

シートNo.	C-4 1	類型	インフラ
地域資源名	高速道路網		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 三大都市圏を結ぶ東西交通の大動脈である東名・名神高速道と名古屋圏の環状交通を担う東海環状道の結節点に位置し、急ピッチで進む後者を介して東海北陸道や東名阪道、第2東名・名神高速道とを結ぶハブとなる。 東海環状道の全通後は、西美濃エリア全域で高速道路網へのアクセス性が良好となる。 	<p>【イメージ】</p>	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市には、日本の物流の大動脈である名神高速道路と東海環状自動車道が交差する形で通っていて、それぞれ大垣インターチェンジと大垣西インターチェンジが供用されており、市内から車を使用しての三大都市圏へのアクセスは非常に良い。 <p>【名神高速道路（大垣IC）】</p> <p>1964年9月供用開始。通行台数は約15千台／日</p> <p>【東海環状自動車道（大垣西IC）】</p> <p>2012年9月供用開始。岐阜県内の全線開通は2024年を予定。</p> 大垣市は江戸時代、五街道の一つ中山道と、名古屋から京都をつなぐ東海道の主要バイパスである美濃路が交差し、さらに揖斐川・水門川の水運が結びついた物流・交流拠点として発展した経緯があり、上記高速道路網整備のベースとなっている。 また、名神高速道路を迂回する形で東海環状自動車道の整備が進められており、今後、さらなる交通アクセスの向上が見込まれる。 		
インフラの活用例	<p>アクセス性と事業用地の低コスト性を生かした物流拠点化</p> <ul style="list-style-type: none"> 高速道路網は現状でも充実しており、西回り全通による伸びしろも大きいことから、事業化促進要素としてPR可能。 物流拠点化に必要な用地取得も、例えば首都圏や関西圏よりも単価が安く優位性がある。 3大都市圏すべてに半日以内にアクセス可能で、日本の中央に位置する立地上の優位性は抜群で、この点でも交通渋滞でロスが大きい首都圏より優位。 <p>事業化例：「大垣市公設地方卸売市場と高速道路の活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで、他の地域の市場が拠点となっていた生鮮食品等取引等を高速道路網など交通アクセスの利便性などをPRすることで、大垣市公設地方卸売市場を加工物流拠点化し、新たな市場間取引を創出する。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		

シートNo.	C-4 2	類型	インフラ
地域資源名	食品委託加工施設		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市公設地方卸売市場内で2019年3月に稼働した食品加工施設は、高度な衛生管理と多岐にわたる加工設備を有する。 ・試作開発から相当な量産対応まで可能であるが、特に当地域ならではの原料素材の加工に重点的に取り組む予定。 ・類似施設は全国的にも珍しく、貴重な地域のインフラである。 	<p>【イメージ】</p> 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある地域の農林水産物等を使用した商品開発をする上での大きなネックは、試作開発段階あるいは量産段階など各段階での開発パートナー、すなわち設備、技術力、開発力、衛生管理力を兼ね備えた委託加工先が地域にほとんどないことである。 ・大垣市および西濃圏域においても大きな課題であったが、今般大垣市公設地方卸売市場内に、同市場の指定卸売事業者である大垣水産青果(株)が、大垣市の(株)土里夢ファームとともに、地域の事業者とのコラボを前提とした食品加工施設を稼働させており、地域特産品開発の推進力として大いに期待できる。 		
インフラの活用例	<p>地域に開かれた市場内加工施設としての優位性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設は、大垣市公設地方卸売市場の卸売事業者である大垣水産青果(株)が、大垣市内の農業法人である(株)土里夢ファームと、地域の生産者にも気軽に活用可能な形で運営中。 ・惣菜製造、菓子製造の営業許可を受けたスチコン、急速冷凍機、大型冷風乾燥庫などからなる設備があり、様々な素材の乾燥、急速冷凍、菓子製造など様々な加工の受託も可能。 ・このような施設は類例が少なく、また衛生管理水準も高く、市場内立地という優位性もある。地域内での密接な協力関係を構築しやすく、とびきり鮮度の良い素材を安定的な確保できれば、高品質な加工品の安定生産につながる可能性がある。 <p>事業化例：「摘果梨を使ったペーストや果実酒原料の製造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣の梨の摘果分を使って、ペースト、シードル原料を製造・供給することで、2次加工原料の安定供給が可能となる。 ・その際には、摘果梨集荷や加工品出荷の両面で、市場内立地のメリットが生かせる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当該施設の周知 ・加工素材の安定供給体制 ・加工素材の鮮度保持 		

シートNo.	C-4 3	類型	インフラ
地域資源名	堤防道路		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 広大な濃尾平野を幾筋も大河川が縦貫する西美濃地域は、全国的に最も最も堤防道路が発達している。 堤防道路は、速達性、定時性の高い交通インフラであり、平田鞆負、デレーヶなど先人の苦労の所産、すなわち決壊と修復を繰り返してきた歴史遺産でもある。 さらに、見晴らしが良く直線的で北海道の開拓道路のような解放感も味わえる移動手段であり、河川敷や法面の植生などの再生可能資源の活用拠点にもなり得る。 	【イメージ】	
内容	<p><揖斐川></p> <ul style="list-style-type: none"> 揖斐川町の冠山を源とし、途中一部木曽川、長良川と平行して流れ、河口附近の三重県桑名市で長良川と合流、そのまま伊勢湾に注ぐ一級河川。延長121 km。 <p><長良川></p> <ul style="list-style-type: none"> 郡上市の大日ヶ岳を源とし、三重県を経て揖斐川と合流し、伊勢湾に注ぐ一級河川。延長166 km。・揖斐川・長良川とも河川両岸に堤防道路が設置されており、川の特徴から堤防道路は直線的で運転しやすく交通量も多い。 揖斐川・長良川とともに川幅が広く、河川敷には公園やグラウンド、ゴルフ場などが作られ、憩いの場として活用されている。 		
インフラの活用例	<p>堤防道路の循環型ビジネス活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 広く有用性が認知されている道路交通インフラに加えて、堤防道路を河川、河川敷、堤防法面を含む河川空間として捉えると、再生可能で膨大なバイオマスを永続的に産出する空間である。 現在は活用されず多額の行政予算で伐採・焼却されているが、これを資源化すれば自律循環型のビジネスとなり、行政コスト削減や雇用創出、環境教育拠点化できる可能性がある。 その場合は、堤防道路をバイオマスの供給空間、活用ヤード、環境教育拠点という3つの側面から活用することになる。 <p>事業化例：「堤防道路の農業資材ヤード化」</p> <ul style="list-style-type: none"> 既に恵那市に本社がある事業者が河川空間バイオマスの事業化に成功しており（国交省METIS登録済）、岐阜県東濃地域や愛知県などで、既に植生伐採後の焼却・廃棄処分費用の低減、地域農業者等への有益な資材提供等で多大な効果を挙げている。 当地でも技術導入およびビジネス化は十分可能と考えられる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 採算性、各種団体、企業との調整 		

シートNo.	C-4 4	類型	インフラ
地域資源名	鉄道集客力		
市町村名	大垣市、海津市、本巣市、垂井町、関ヶ原町、揖斐川町、池田町、神戸町、養老町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市内には3つの鉄道会社が走っていて、大垣駅で全て乗り入れている。稠密な鉄道網は地域交通に加えて、観光誘客の手段としても期待できる。 ・特に養老鉄道は、自転車を袋詰めせずそのまま積載可能なサイクルトレインとしての希少性もある。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市内は、①JR東海の東海道本線及び美濃赤坂支線、②養老鉄道の養老線、③樽見鉄道の樽見線が走っている。全ての鉄道は大垣駅に乗り入れしており、大垣駅を中心として、南北・東西方向への移動の利便性を大いに高めている。また、この鉄道網は、大垣市や周辺自治体にとって、単に市民の地域公共交通網というだけでなく、観光誘客のための手段ともなるもので、今後、さらなる活用が期待される。 ・東海道本線は名古屋方面にほぼ15分間隔で休日も含めて快速電車が運転していて、名古屋－大垣の乗車時間も30分あまりと、名古屋からは時刻表を気にせず気軽に来れる。 ・毎年3～4月はJR東海が大垣観光協会と組んで、水門川下り等のキャンペーンを行い、多くの集客実績がある。 <p><JR東海大垣駅> <養老鉄道大垣駅> <樽見鉄道大垣駅> 乗降客：32,538人/日 乗降客：7,687人/日 乗降客：724人/日</p>		
インフラの活用例	<p>トレイン＆サイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のへそである名古屋駅とのパイプの太さ、サイクルトレインとしての養老鉄道の観光資源性、JR東海との連携可能性を勘案、インフラとしての成長期待は大きい。 ・道路が平坦で交通量もそれほど多くない西美濃は、自転車に乗って観光するのに適しており、自転車を活用すれば回遊可能な観光資源の範囲が飛躍的に広がる <p>事業化例：「大垣－西美濃コミュニティサイクル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前をはじめ、大垣市内の主要観光スポット付近にステーションを設置し、交通系カード（トイカ、マナカなど）で貸出返却を随時各ステーションで可能とする。 ・トレイン＆サイクルを念頭に、JR東海、養老鉄道、樽見鉄道の各社と協議して、西美濃エリアにフリー乗降可とすれば、広域観光集客ツールとなる可能性がある 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各鉄道事業者との連携 ・ステーション設置、貸出用自転車配備等のシステム投資 		

シートNo.	C-4 5	類型	インフラ
地域資源名	地下水		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市は全国でも有数の自噴帶に位置しており、豊富な地下水の恵みにより昔から「水の都」と呼ばれている。 各所で湧水（自噴水）がみられ、誰でも水の恵みに親しめる。 加賀野八幡神社にある井戸は、大垣の豊かな自噴水を代表するものとして、昭和61年に「岐阜県の名水」に、平成20年に環境省「平成の名水百選」に選定されている。 大垣市は、明治から大正にかけては紡績業で栄えたが、現在は電子部品や輸送用機械などに移り変わり、豊かな産業文化都市へと発展をとげた。その産業発展を支えたインフラが地下水であり、現在においても、製品や設備の洗浄・冷却など工業用水としても大いに活用されている。 <p>【地下水にちなんだ特産品：水まんじゅう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣を代表する夏の風物詩。水の質が良い大垣ならではの代表的な和菓子。上質の葛粉とこしあんを使い大垣の水で仕上げたもので、つるりとした舌触りが人気。 		
インフラの活用例	<p>新事業用専用の深井戸水源確保</p> <ul style="list-style-type: none"> あらゆる製造業（特に食品加工）において水質は重要であり、水道水と比してコストが安い地下水が活用できることは、事業立地を考えるうえで重要。 組み上げ量が過大で地下水位が低下した時期もあったが、紡績工場の撤退によって現在は回復している。 加賀野八幡神社など、大垣市内に多数ある自噴井は、観光客と市民向けなので、水質良好な地下水を安定供給できる深井戸を新事業専用に確保することで、事業成功の可能性が高まる。 <p>事業化例：「大垣の水や西美濃地域のフルーツを使った「かき氷」」</p> <ul style="list-style-type: none"> 木曽川伏流水が水源と言われる大垣の深井戸は、極めて水質良好で製氷にも向く。 西美濃地域のフルーツ、甘藷の砂糖を加えないソース、ペーストをトッピングして、素材感あふれるヘルシーな独自のかき氷を開発・ブランド化できる可能性がある 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 良質な地下水の安定確保 		

シートNo.	C-4 6	類型	インフラ
地域資源名	道の駅・直売所		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の数については、岐阜県が北海道に次ぐ全国2位の56で、うち西美濃には10か所もある。 直売所については、JA直営の大規模なものから月1回開催されるものまで、各市町に数多くある。 これらは、認知度が高い地域産品販売と観光誘客の拠点であり、地域のためのインフラと言える。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県に道の駅が多いのは、木曽三川が刻む谷筋に主要街道が縦断していて国道・県道の総延長距離が長いことと、中山間地では合併前の市町村ごとに道の駅が作られたことによる。 昨年大野町にオープンした「パレットピアおおの」は、防災拠点機能や子育て拠点機能も併せ持つ重点道の駅として整備され、オープン当初は入場に1時間程度の待ち時間が発生して、予想をはるかに上回る売上高や入込客数を記録し、西美濃における地域産品販売や観光誘客の拠点としての可能性を示した。 一方、直売所は各市町に数多くあり、専ら地域住民向けの地産地消の場として機能しているが、ほとんどが観光誘客のような地域外の需要は取り込めておらず、全体としてオーバーストアの状態にあって伸び悩んでいる。 道の駅も直売所も、地域産品を優先的に取り扱う点と地域外需要を取り込まないと伸長が図れない点では共通している。 		
インフラの活用例	<p>拠点オリジナル商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅や直売所も、集客力の源泉は地域産品の有する素材感、独自性、土着性であり、常に優先的に地域産品を取り扱うので、地域資源を活用した商品等の販売拠点としてふさわしい。 一方、集客力の肝となるような独自性に富む地域産品は不足しているので、各拠点オリジナルの地域産品を開発し、希少性と話題性で外部需要の取り込みを図ることが考えられる。 各拠点で競って取り組むことで、地域としての商品力が向上して誘客力が向上する可能性がある。 <p>事業化例：「西美濃ライスバーガー」</p> <ul style="list-style-type: none"> 中におかずを挟んで食べるバーガーならば、各拠点近隣で収穫できるこだわり食材（野菜、肉類、卵など）を地域特有の味噌、醤油等の調味料とレシピで、中身を工夫することができる。 また、西美濃は米どころなので、バンズはパンでなく米とし、各拠点で競えば話題性を呼び、食べ比べ需要も喚起できる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 拠点間の合意形成 西美濃ライスバーガーの定義付け（要件） 		

シートNo.	C-4 7	類型	インフラ
地域資源名	山のふもと水さらら		
市町村名	池田町		
地域資源となる理由	<p>・池田町が町内の高品質な米、野菜、果樹を生産している意欲的な生産者を束ね、地方創生の観点からネットショップ化してるので、プロモーション品質も秀でており、取り組み全体として地域資源と評価できる。</p>		
			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・池田町内の農家がネットショップによる販路拡大・所得の増加を狙いとして、池田町とともに「山のふもと水さらら販売組合」を設立し、特産品の販売、情報発信を行っている。 ・この取り組みは、町民が地方創生を議論する中で生まれたもので、プロモーションツールとしての完成度も高く、全体として池田町の風土が印象的に伝わる内容であり、全国的にも注目されている。 		
インフラの活用例	<p>西美濃全域への展開とビジネスニーズの取り込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は池田町独自の取組であるが、これを西美濃全域に展開するとともに、個人ニーズに加えてビジネスニーズを取り込むことが考えられる。 ・こうすることで、各市町単独で行うより品揃えが充実し、供給力も増大して欠品が少なくなって、ネットショップの魅力が増して集客力が高まり、管理費用も削減できる可能性がある。 <p>事業化例：「西美濃チャネル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池田町を除く各市町で、「山のふもと水さらら」の仕様と構成に合わせてネットショップを立ち上げ、それを統合するサイトをビジネス需要に対応する形で開設して共同で運用する。 ・具体的には、受発注と発送業務を担うセンターを設置して、業務の一本化して、コストと納期を削減し、顧客対応力を高めるとともに、ネットショップの継続的なPRや改善もセンターで行うことも考えられる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者での合意形成 ・デリバリーを含めた仕組みの構築 		

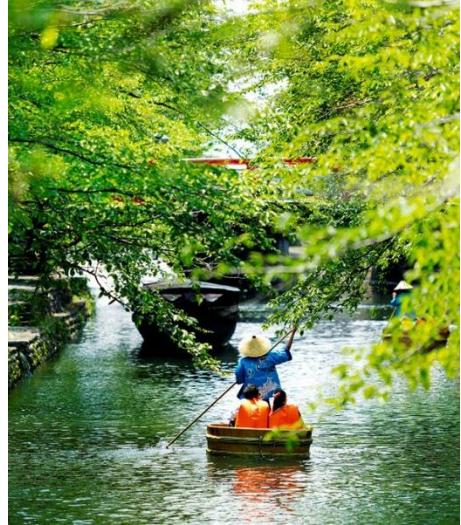
4. 地域資源発掘シート

D-48~57 風土【10】

48 伊吹山	…57	49 菓子文化	…58	50 川下り	…59
51 金生山	…60	52 循環型社会性	…61	53 先進性	…62
54天下・文化の分け目	…63	55 農福連携	…64	56 発酵文化	…65
57 焼肉街道	…66				

シートNo.	D-4 8	類型	風土
地域資源名	伊吹山		
市町村名	関ヶ原町、揖斐川町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 伊吹山は薬草の宝庫と呼ばれ約280種類の薬草が自生している。かつて織田信長がこの地を訪れた際、奨励したので認知され発展してきたという説もある。 また、伊吹山周辺では古くからそれらの薬草を、薬、食材、入浴剤などとして、生活に利用してきた文化がある。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 伊吹山は標高1,377メートル、石灰岩からなる山。大昔は海底火山で、堆積したサンゴにより地層が形成されたと考えられている。通常この付近では標高約2,000mで森林がなくなるが、伊吹山は石灰岩の地質と強い季節風や雪が多いことから森林がほとんど形成されず、山頂付近様々な植物が自生している。日本列島のほぼまん中に位置し、気象的には南北の植物の限界域にあたり、植物ひいては薬草の種類が多いのが特徴。 伊吹山には280種類余の薬草が自生していて、薬草の宝庫と言われている。 歴史的にも平安時代に宮中へ献上された薬草の種類が、美濃国では63種類、近江国では73種類と、他地域に比べて多いという記録が『諸国進年料雜薬』に残っており、伊吹山と深い関わりがある。江戸時代には、将軍の命を受けて薬草採取が行われており、地元でも日常生活の中で活用してきた。 一部を除いて、西美濃地域からは広くその山容を仰ぎ見ることが可能で、冬期の季節風を伊吹下ろしと呼ぶなど、今でも地域の求心力となっている山である。 		
事業化への着眼点	<p>伊吹山ブランドの商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡県と山梨県では、富士山を表象したブランド化が盛ん。 当地では、富士山は見えず、伊吹山が西美濃地域のシンボルとして住民に親しまれており、伊吹山自体が薬草の聖地であることから、伊吹山を健康食品やサプリ等のトータルブランドとして活用することで、地域ブランドとなる可能性がある。 <p>事業化例：「伊吹山ブランドの薬草関連商品の開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬草というと独特の漢方薬臭を想起させるが、サプリや健康食品として気軽に摂取できる商品とし、さらに伊吹山を薬草の山にせよと命じたとの説もある、織田信長も登場させることも考えられる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 伊吹山ブランドの要件設定 ブランド化に向けた推進母体の創設 		

シートNo.	D-49	類型	風土
地域資源名	菓子文化		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 城下町、交通の要衝という2つの性格を併せ持つつ発展してきた大垣は、菓子製造に極めて重要な豊富な地下水にも恵まれていて、昔から菓子作りとそれを多用する菓子文化が根づいている。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣は、京都と江戸を結ぶ中山道と、名古屋へ直結する美濃路、さらには水運の拠点でもあり、菓子の素材となる物資、菓子の様々な製法を伝える人の往来が活発であり、加えて菓子作りに欠かせない地下水が豊富であったことから、昔から菓子作りが盛んであった。 一方、大垣は戸田家10万石の城下町であり、交易で財を成した裕福な商人も多く、菓子も多量に消費され、菓子文化が自然に形成された。 そんな環境下で、柿羊羹のつちや、金蝶まんじゅうを扱う菓子店も江戸時代から現在に至るまで多数の老舗が今も営業している。 大垣の風土と結びついた「水まんじゅう」の店頭販売は、大垣の夏の風物詩として、観光資源にもなっている。 		
事業化への着眼点	<p>菓子店の集積を生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 老舗菓子店が独自の製法にこだわり、それぞれの固定客を有して多数ある状況を生かす。 季節に応じた「お題」を掲げて、各菓子店が独自の工夫をした季節菓子を競って店頭で販売すれば話題性を呼び、菓子文化の間接的な認知にもつながる。 <p>事業化例：「二十四節季まんじゅう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 暦上の季節、いわゆる二十四節季それぞれに合わせたまんじゅうをテーマに掲げて、各店で創作季節菓子を競うことで、年間を通した話題提供につなげ、消費を拡大させ、観光客も呼び込む。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 菓子店の合意形成 行政等とのタイアップ 		

シートNo.	D-50	類型 風土
地域資源名	川下り	
市町村名	大垣市	
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原合戦の頃、大垣城が舞台として描かれた戦国秘話「おあむ物語」。「たらい舟」は、物語にでてくる「たらい」を参考としている観光資源。 ・かつて大垣城のお堀の一部であった水門川を使った、川下りは水の都大垣に風土になじんでいる。 ・最近では、桜の季節は「和船」で、ゴールデンウィークは「たらい舟」と、それぞれ川下りが行われていて、旅行会社等とタイアップして多くの観光客を呼び込んでいる。 	<p>【イメージ】</p> 
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原の戦いの際に石田三成の家臣で山田去暦の娘おあむが、たらいに乗って落城する大垣城から逃げ延びたという『おあむ物語』にちなみ、2003年から「たらい舟」を使った川下りが行われている。 ・川下りは、大垣城をぐるりと囲む外堀の水門川で行われ、観光客は「和船」もしくは「たらい舟」に乗船し観光する。 ・ゆったりと川を下っていく舟上から、水門川沿いの風景や水郷の風情を満喫することができる。 	
事業化への着眼点	<p>通年営業化と観光パッケージ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、運航は春季の一時期に限られているが、これをイベントも交えて通年営業し、船頭の観光ガイド対応力も高めて、他の観光資源と共にパッケージ商品化することで、より水都大垣の観光イメージ強化につながる可能性がある。 ・JR東海や旅行会社と組んでツアーハイウェイ化することで、インバウンド客が誘致できる可能性もある。 <p>事業化例：「たらい舟を活用したイベントの実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地で行われている川下りレースを参考に、参加者が自作した「たらい舟」を使って、水門川下りレースを実施する。既存の「たらい舟」を宣伝する効果も期待できる。 	
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業権問題 ・イベントと通常営業の切り分け 	

シートNo.	D-5 1	類型	風土
地域資源名	金生山		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市赤坂町にある金生山は、山全体が石灰岩で、日本有数の石灰石の産出地である。 ・江戸時代から掘削されているが、埋蔵量が豊富であり、周辺には石灰や大理石等の関連産業が集積している。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・金生山は山全体が良質な石灰岩で、山容や露天掘りの現場も独特であり、市街地に近接していてアクセス性も良く、周辺には他の観光資源も多い。 ・江戸時代から採掘されているが、今の生産量でも数百年は枯渇しないほど埋蔵量は豊富で、周辺には石灰関連の企業を育み続けているという大地の恵みを実感できる山である。 		
事業化への着眼点	<p>観光資源としての再評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良質な鉱物資源の産出地であることに加えて、これだけ石灰産業が集積している地域が珍しいこと、掘削の現場や山容が面白く、山頂からの眺望も素晴らしいこと、山頂には著名な虚空蔵菩薩もあり、山麓には中山道の赤坂宿があるなど、産業観光、歴史観光、パワースポット観光の目的地として位置づけることで、観光客誘引できる可能性がある。 ・また、風景だけでなく、石灰産業の工場の外観や内部も他では見ることが難しくかつ強烈なインパクトがあり、産業観光としての可能性も十分ある。 <p>事業化例：「OGAKI発パワースポットツアー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「JR大垣駅 → 金生山（名前が最高）→ 化石館 → 虚空蔵菩薩（蛇頭岩）→ 赤坂港会館（皇女和宮）→ 池田温泉（昼食・入浴）→ JR大垣駅」といったコースなどで、他所にない観光ツアーが組める可能性がある。 ・また、金生山一帯の石灰産業集積の荒々しい見どころを組み込むことで、よりオンリーワン性が高まる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・土産物の開発 ・食事処の整備 		

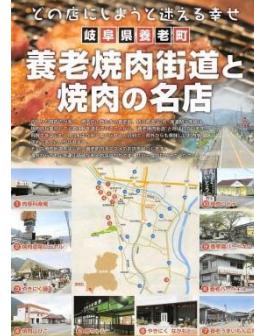
シートNo.	D-52	類型	風土
地域資源名	循環型社会性		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 日本有数の製びんメーカーが本社を置く当地域では、全国的にも珍しくガラス瓶色別回収が定着しており、地域資源循環のお手本となっている。 	<p>【イメージ】</p> 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市内には、全国第3位のガラス壌の大手メーカーがあり、製壌原料（カレット）のリサイクル調達に注力してきた結果、西美濃地域は全域でガラス壌の色別回収が定着している全国屈指の先進地域となっている。 また、自治会や子供会などによる資源回収も、各自治体からの補助もあって活発で、回収日には回収拠点に子供を含む地域住民が集って回収を待つ姿が散見され、リサイクルが社会風土として定着し、次世代へ受け継がれていく様子がうかがえる。 農業分野では、JAにしみのは燻炭製造プラントを導入してもみがら燻炭を商品化したり、垂井町の牧場ではもみがらを堆肥商品化したりしている。 リサイクルの実現は、住民意識が高い水準で維持されているからこそ可能になるのであり、これは他の事業にも活用可能な循環型社会性という風土である。 		
事業化への着眼点	<p>地域の優れた風土で若者を呼び込む</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化の中で大切に育てられた20代以下の若年層は、自身の感性を大切にする傾向が強く、ダンスや英会話などの教育を通して自身の感性を表現することに長け、環境意識も高い。 芸術的な職業を志向する若者は、とりわけ感性が鋭く環境意識も高いが、こうしたクリエイティブな若者を誘引するためには、カレットなどの安価な再資源化素材が入手しやすい仕組みと、循環型社会性が定着している風土の訴求が有効である。 <p>事業化例：「リサイクルアート工房」</p> <ul style="list-style-type: none"> 色とりどりのガラス瓶由来カレットを始め、大垣市内外に集積する様々な工場から出るものの中で、クリーエイター目線で見直して素材として面白いもの、使えそうなものを集めて安価に提供・創作する工房を、関係者が共同して運営して若者を呼び込み、逆に運営者には若者の感性をシェアできるメリットを持たせるようにする。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 工房創設・運営に向けた関係者間の協議 工房を含む拠点整備 		

シートNo.	D-53	類型	風土
地域資源名	先進性		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市と周辺地域では、圃場整備事業が全国で最も古く1950年代から実施されている他、企業誘致も揖斐川での発電事業を端緒に関連産業を芋づる式に誘致する事業がいち早く行われた。 また、大垣駅から南に伸びる駅前通には、1950年代には鉄筋コンクリート3階建ての商店街が出現しており、この地の先進性の一端がうかがえる。 		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 先進性は、中山道、美濃路、揖斐川、水門川等の交通インフラの結節点に位置することで人・モノの往来が活発となり、経済的に繁栄した江戸時代に端を発する。 松尾芭蕉が大垣を目指して奥の細道を旅したのも、大垣の繁栄が江戸にも伝わっていた証左だし、進取の気性に富んだ大垣の篤農家が、梨の商業生産を江戸中期に開始して各地に積極的に広めたという記録もある。 こうした地域の気質が受け継がれて、幕末には梁川星巖、小原鉄心、所郁太郎などの志士を輩出し、その後も先進性を保ち続けた結果、大垣だけでも8社に上る株式公開企業の集積や、ソフトピアジャパン等の誘致にもつながっている。 		
事業化への着眼点	<p>事業化先進地</p> <ul style="list-style-type: none"> 先進性だけで事業化ではないが事業化には不可欠な要素であり、歴史的な取組に加えて先進的な事業化サポート体制を整備し、先進性を上手くPRできれば、事業意欲に富むヒトと事業に必要なモノとカネと情報を呼び寄せることができる。 また、事業化が上手く軌道に乗れば事業者が大垣の先進性をPRしてくれるので、事業化先進地として認知される可能性が高まる。 <p>事業化例：「水と子どもと事業を育む大垣」</p> <ul style="list-style-type: none"> これは、大垣市の対外的なキャッチフレーズとしての提案である。 大垣は「水都」と呼ばれているが、地形的な優位性に加えて良質で豊富な地下水を守り育てきた地域性に起因している。 その地域性は、子育て支援や子や孫の世代の生活基盤を支える事業化支援や地域活性化との親和性も高い。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		

シートNo.	D-5 4	類型	風土
地域資源名	天下・文化の分け目		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 全国の主要大名が東軍・西軍に分かれて対決した1600年の関ヶ原の合戦は、「天下分け目の合戦」と言われ、関ヶ原という地名は広く知られている。 様々な東西の文化的な分かれ目が関ヶ原を含む西美濃あたりではないかという分析もされている。 この天下・文化の分け目という地理的な特性は、他地域にはない地域資源と言える。 		
内 容	<p>・1600年10月21日、徳川家康と石田三成が美濃国不破郡関ヶ原（岐阜県不破郡関ヶ原町）を舞台に繰り広げた「関ヶ原の合戦」は、天下分け目の戦いとして広く知られている。わずか1日で決着したというはかなさ・濃密感と、長期に亘る徳川氏霸権の契機となったという波及性・重要性とによって、この合戦は歴史のターニングポイントとして日本人の脳裏に刻まれている。</p> <p>・関ヶ原町をはじめとする西美濃地域は、合戦だけでなく食や文化についての分け目として知られている。関ヶ原町が「関ヶ原付近が境界線と考えられるかどうか」を調査し公表した「東西文化の調査報告書」（2016）によると、関ヶ原付近が境界線と考えられるものは、「丸餅と角餅」、「カレーに入れる肉での豚肉派と牛肉派」「白ネギと青ネギ」「いなりずしの俵型と三角型」など、多くの項目で分け目であることが推測される。</p> <p>・他にも、畠の広さ、関西風のアクセント、だしの素材と味付けの濃淡など枚挙にいとまがない。</p>		
事業化への着眼点	<p>多文化共生社会の地への企業誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> 関ヶ原を含む西美濃エリアが東西の文化の分かれ目に位置していることは、当地域だけが持つ無二の地理的な特性であるが、この特性活用のヒントとなるのは、どん兵衛というカップめんの商品性が、この地を境に大きく変えてあるという点である。 少子高齢化対応とインバウンド政策により、在住・来訪する外国人増加が見込まれ、様々な文化的背景に合わせた商品開発の必要性が高まっており、東西文化の接点で商品開発する優位性を訴求することで、企業誘致を加速できる可能性がある <p>事業化例：「多文化対応 R & Dセンター」</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の背景から、この地は今後ますます強まる多文化共生社会に対応する研究開発拠点として優れていることも訴求して、企業の研究開発拠点を誘致する。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 拠点用地の確保 		

シートNo.	D-55	類型	風土
地域資源名	農福連携		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 西美濃は土地が肥沃で農地の割合が高いので、福祉施設が農業生産を手掛けている事例も多く、また農業者の助っ人として福祉施設が活躍している事例もある。 農福連携は、全国的に注目度が高まっているが、地域ごとの温度差が大きい中、西美濃は先進地域にあたる。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> 農業現場では高齢化と新規参入者不足によるマンパワー低下が深刻化する一方、少子化の中でも特別支援学校の生徒数は全国的に増えており、農福連携の必要性は高まっていて、政策的な支援メニューも充実しつつある。 しかしながら、農福連携は地域間の温度差が大きく、なかなか足並みが揃わないのも実情である。 この点、岐阜県が農福連携を推進することを狙い2016年度に開始した「障がい者農業参入チャレンジ支援事業」において、第1号案件が大垣市で、第2号が本巣市で実施されている。 大垣市や垂井町、池田町などの市町の社会福祉協議会が運営している障がい者施設では、いずれも直接農業生産に関わっており、西美濃地域は農福連携の意識が高い。 		
事業化への着眼点	<p>農福連携の先進地化</p> <ul style="list-style-type: none"> 西美濃地域は農福連携の風土があるが、まだ各取組が散発的に実施されている段階であるので、これを地域の中で草の根的に広げていくことで、外部に認知されるようになると、様々な事業者からのオファーも自然と呼び込めるようになる可能性がある。 <p>事業化例：「福祉農園俱楽部」</p> <ul style="list-style-type: none"> 先進地化のための勉強会であるとともに、具体的な事業化の道筋を個別の福祉施設の事情に応じて考えていくためのボランティア組織の構想である。 大垣市のOKB農場は、福祉農園の仲間作りの応援を掲げており、これをベースに行政や興味のある福祉団体が参加して自主運営する。 なお、OKB農場では加工施設を整備するなど、福祉農園等の仲間の生産した農産物の買取・加工等も視野に入れている。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 関係者を交えた協議の場づくり 俱楽部参加への呼びかけ 		

シートNo.	D-56	類型	風土
地域資源名	発酵文化		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 発酵食品の主要原料である米や大豆の産地であり、最高品質の麹菌や製法が京都から各地に運ばれる中継点にあたる西美濃は昔から酒、味噌、醤油の醸造が盛んで、今も全域に手作り味噌などを作る文化がある。 	<p>【イメージ】</p> 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> すべての発酵食品の出発点となるのは、良質な麹菌の確保であるが、この点においても西美濃は風土に根付いている。 大垣の商店街の一角には創業260余年を誇る麹店が自家選抜した麹菌を用い、独自の秘伝の製法で作った米麹や味噌、甘酒を販売しており、大野町には大手麹製品メーカーがあって、全国に各種麹製品を販売している。 また、大垣市、養老町、輪之内町、揖斐川町、大野町、池田町には今も地元に支えられた造り酒屋があり、海津市には地域の各農家に受け継がれてきた柿酢製造を事業化した柿酢専門の醸造所もあるなど、伝統的な風土というにとどまらず、産業としての基盤も有している。 		
事業化への着眼点	<p>甘酒活用スイーツの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、健康志向の高まりとともに、砂糖や甘味料の使用を極力減らした加工食品を開発することがトレンドとなっている。 この地の良質な米と米麹を原料とした甘酒を砂糖の代わりに使って開発することにより、ヘルシー志向に合う加工品を作れる可能性がある（酒粕不使用ならアルコール分も0）。 甘酒は強い甘みとコクがあり、人工的な砂糖・甘味料と異なる自然食品であり、発酵状態が絶えず変化するので大量生産品に使うのは難しいが、地域商品への活用は十分可能である。 <p>事業化例：「西美濃あまざけフルーツプリン」</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要原料の卵、牛乳、甘酒は、甘酒の素材も含めてすべて西美濃産、トッピング的に加えるフルーツやハーブなども西美濃産とすれば砂糖を加える必要もなく、100%西美濃産の素材で作ったヘルシーでオンリーワンなプリンができる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 生産者間の合意形成 レシピ、パッケージ開発 委託加工先の確保 		

シートNo.	D-57	類型	風土		
地域資源名	焼肉街道				
市町村名	養老町				
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 昔から牛肉の集散地であるため、飛騨牛を筆頭に上質で鮮度の良い牛肉の安定確保がしやすいことから、薩摩コウカイズ街道沿いに焼き肉レストランや精肉店等が集積して、名古屋や関西方面も含めた広域にわたる集客力も有している。 	<p>【イメージ】</p> 			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 肉の流通拠点という地域性は、長年かけて関係する事業者が集積したことによって育まれたもので、それだけでも他地域の追随を許さない優位性がある。 この地域の特色は、B to B の取引拠点にとどまらず、消費者向けの飲食店や小売店が自然発生的に集積してそれが焼肉街道として認知され、さらに口コミで広まったという点である。 現状でもかなり広域から集客ができているが、積極的に「焼肉街道」をブランド化して、他地域でも横展開するとか、観光集客や土産物等の商品開発に活用など、今後の活用の可能性は大きい。 				
事業化への着眼点	<p>ブランド化は未着手</p> <ul style="list-style-type: none"> 焼肉街道は、肉のプロが活躍する集散地としての地域性から派生した消費者向けのアウトレットであり、デベロッパーや行政主導でなく自然発生的に生まれた点に底力があることに加えて、ブランド化や2次的な活用はまだほとんど手付かずであるだけに伸びしろも大きい。 中京圏や関西圏でも認知度も高まっており、関係者が協議して自然発生的なブランドを磨いて活用可能な状況にある。 <p>事業化例：「焼肉街道の横展開と関連商品開発とSNSの活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、大垣駅、大垣IC、池田温泉、華厳寺、千代保稻荷神社等の地域の玄関口や観光拠点の付近に「焼肉街道」を横展開することで、地域の集客力の底上げと焼肉街道をブランド化ができる可能性がある。 システム化して他地域に食材供給とFC展開したり、焼肉街道ブランドの土産商品を開発して販売したりする可能性がある。 さらに、SNSを活用して、和牛が大好きなアジア諸国からの観光客を誘引できる可能性もある。 				
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 焼肉街道のブランド化 焼肉街道の他地域展開戦略づくり 				

4. 地域資源発掘シート

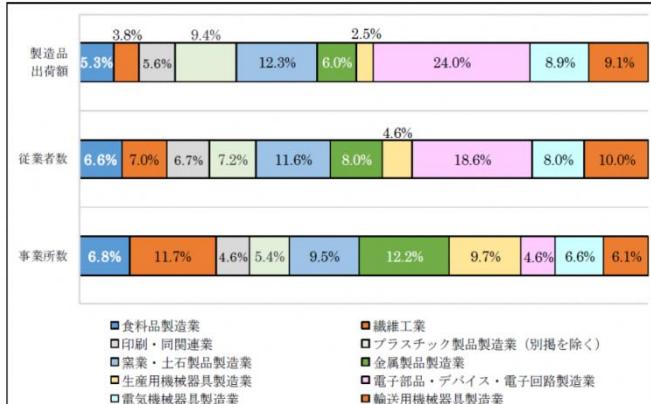
E-58~68 産業力【11】

58 I T 対応力	… 68	59 金型産業技術	… 69	60 機能性食品(健康食品)	… 70
61 サプライチェーン集積力	… 71	62 商圈形成力(地の利)	… 72	63 精密加工技術	… 73
64 石灰産業集積	… 74	65 抽出・精製・製剤産業集積	… 75	66 追熟・鮮度保持加工技術	… 76
67 撥糸加工技術	… 77	68 容器・パッケージ産業集積	… 78		

シートNo.	E-58	類型	産業力
地域資源名	I T 対応力		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市には、I T人材育成・供給拠点であるソフトピアジャパンが立地していて、I T、A I関連の企業集積がある。 ソフトピアジャパンでは、地域の企業向けにI T、A I関連の各種研修等や相談対応を行っており、大垣市内外のI T対応力を下支えしている。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ソフトピアジャパン (Softopia Japan) は、岐阜県が大垣市に1990年代より整備した先進情報産業団地、またはこれを運営する公益財団法人。総面積は12.7ヘクタール。140社以上のI T関連企業が集積してI T関連技術者など2,200人超が働く東海地域の一大I T関連産業拠点が形成されている。 公益財団法人ソフトピアジャパンでは、I T人材の育成、ベンチャー企業の育成をはじめ、研究開発支援・技術支援などを行っている。 ソフトピアジャパンのI T拠点は、A I産業の発展により近年再評価されている。 		
事業化への着眼点	<p>A I 実装化プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくり企業などから寄せられたA I実装化に関するアイデアをもとに、クラウドファンディング的にアイデア実現に興味のあるI T企業が参加して意見交換し、F S（事業化可能性調査）段階を経て、プロジェクト化していく場を作る。 これは、A I関連企業集積であるから可能な仕組みであり、こうすることで、A I実装化の潜在ニーズを引き出し、当地内で事業化に至る可能性が広がる。 こうしたプロジェクトは個別企業が案件ごとにパートナーを見出す努力をすべきであるが、拠点全体の活性化につながるものであり、ソフトピア側の協力が得られる可能性がある。 <p>事業化例：「A I あるものづくりカフェ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記プロジェクトの入り口として、定期的にA I実装化に向けた気楽な意見交換の場をカフェ形式で開催し、そこで意気投合すればF Sへと移行し、さらに費用対効果が見通せれば事業化に至る流れを、ソフトピアがファシリテートして進める。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーター人材の確保 カフェ開催に関する行政・産業界等の支援 		

シートNo.	E-59	類型	産業力
地域資源名	金型産業技術		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市には、自動車、電機などの部品等を製造・供給する技術力の高いサプライヤー企業が集積しているが、そのけん引役が金型産業技術である。 大垣市内に約40社もの金型メーカーが集積しており、それぞれの専門分野に磨きをかけつつ、西美濃の産業全体を支えている。 	<p>【イメージ】</p> 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> リーマンショック後の円高、発注元メーカーの海外移転の加速により、大垣市の金型産業界も厳しい局面を経験にあったが、海外企業が不得意な、小型化、小ロット化、精密化、短納期化、などの要請に応えることで、それぞれ得意分野に特化しつつ技術力を高めて生き残ってきた。 大垣市全体としては、超微細から超大型まで、樹脂成型用から超硬度合金用まで対応可能な、高度な金型産業技術が集積している。 大垣市も、10年以上前から「モノづくり名工塾」という金型技術に力点を置いた若手技術者の育成事業を継続的に行っており、この地の金型産業集積の下支えとなっている。 		
事業化への着眼点	<p>産業集積力を生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記のとおり、地域として各社に分散保持されている金型技術を集めようプロジエクトを企画することで、他地域で真似のしにくい商品化ができる可能性がある。 技術者魂が刺激されるような夢のあるテーマ設定、各社の得意分野を持ち寄れるような広がり感がポイントとなる。 <p>事業化例：「夢の乗り物プロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくりの技術者には、幼少期にアニメのメカにはまつ、アニメ好きが多い。 例えば、宇宙戦艦ヤマトや機動戦士ガンダム、となりのトトロの猫バスなどの、かつて憧れたアニメの中の夢の乗り物を、技術者の誇りをかけて細部にこだわったミニチュアを製作・販売する。 多数の精密な金型の設計・製作が必要であり、それを参加企業が分担して行うことで、実現可能性が高まる。 また、購入ターゲットはアニメロボット愛好家であり、多少高価でも売れる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの推進者（責任者）の確保 関係者への参加呼びかけ 		

シートNo.	E-60	類型	産業力
地域資源名	機能性食品（健康食品）		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 西美濃地域には機能性商品の製造工場・研究所が集積しており、今後の成長性も期待できる産業であるため。 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 機能性食品の受託製造を行うアピ株、一丸ファルコス株、中日本カプセル株、日新蜂蜜株などの製造工場や研究所が多数存在し、機能性食品（サプリメント等）原料の開発・製造から、パッケージング、販促を含む商品化支援まで幅広く行っており、当地域は機能性食品（原料）の産業集積度が高い。 2015年に、機能性食品（健康食品）として、機能の表示に国の審査などが必要な特定保健用食品（トクホ）や栄養機能食品に加えて、安全性・機能性の届け出だけでよい機能性表示食品が追加された。より簡単に食品の効果を表示できるため、トクホに比べ急速なペースで広まっており、成長性の期待できる分野である。 		
事業化への着眼点	<p>原料供給とOEM製造の両面作戦</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康機能食品の製造は、様々な目的、原料に合わせたサプリメントや健康飲料を製造できるため、地元の産品を用いたオリジナルの商品を作ることができる。 <p>事業化例：「西美濃サプリ＆ドリンク」</p> <ul style="list-style-type: none"> 西濃地方の健康に良い特産品（ヨモギ等）を用いたサプリメント・ドリンクの製造を依頼し、西濃健康サプリとして販売する。用いる特産品は季節によって変更し、西濃の特産品をアピールするツールにする。 ヨモギを含めた和洋のハーブ系の他、当地の地下水位の高い畑でも栽培可能なショウガ、ブロッコリー等の機能性成分が活用できる可能性がある。 サプリの他、ドリンク商品化の可能性もある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 機能性のある西美濃産原料の確保 商品開発と機能性表示に向けた手続き 地元特産品としての販路確保 		

シートNo.	E-61	類型	産業力																																																																	
地域資源名	サプライチェーン集積力																																																																			
市町村名	大垣市																																																																			
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 全国に冠たる東海地域モノづくり産業集積を、大垣に集積しているサプライチェーンが下支えしており、地域資源となり得ると考える。 																																																																			
【イメージ】																																																																				
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年「工業統計調査」によると、岐阜県の製造品出荷額等は5兆1千億円。うち大垣市は約4,700億円で全体の約9%を占め、各務原市に次いで県内第2位。 大垣市には、太平洋工業、太平洋精工、丸順をはじめとする自動車関連産業や、イビデン、野原電研などの電子部品産業、日本合成化学、フタムラ化学などの化学産業、サンメッセなどの印刷、日本耐酸塗工業などの塗装業などの多様な産業がバランスよく集積している。 特定企業の影響力が強い企業城下町ではなく、昔からモノやヒトの流れの結節点にあって交通至便で、日本の中央部にある地の利もあり、不況に強い様々な業種に対応する独特的のサプライチェーンが構築されていて、新たな産業の母胎となる。 																																																																			
製造業業種別構成比(平成 26 年)																																																																				
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>業種</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">製造品出荷額</td> <td>食料品製造業</td> <td>3.8%</td> </tr> <tr> <td>印刷・同関連業</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>織維工業</td> <td>2.5%</td> </tr> <tr> <td>プラスチック製品製造業（別掲を除く）</td> <td>5.3%</td> </tr> <tr> <td>金属製品製造業</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>電子部品・デバイス・電子回路製造業</td> <td>12.3%</td> </tr> <tr> <td>電気機械器具製造業</td> <td>6.0%</td> </tr> <tr> <td>輸送用機械器具製造業</td> <td>24.0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8.9%</td> </tr> <tr> <td>未分類</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">従業者数</td> <td>食料品製造業</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>印刷・同関連業</td> <td>7.0%</td> </tr> <tr> <td>織維工業</td> <td>6.7%</td> </tr> <tr> <td>プラスチック製品製造業（別掲を除く）</td> <td>7.2%</td> </tr> <tr> <td>金属製品製造業</td> <td>11.6%</td> </tr> <tr> <td>電子部品・デバイス・電子回路製造業</td> <td>8.0%</td> </tr> <tr> <td>電気機械器具製造業</td> <td>4.6%</td> </tr> <tr> <td>輸送用機械器具製造業</td> <td>18.6%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8.0%</td> </tr> <tr> <td>未分類</td> <td>10.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">事業所数</td> <td>食料品製造業</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>印刷・同関連業</td> <td>11.7%</td> </tr> <tr> <td>織維工業</td> <td>4.6%</td> </tr> <tr> <td>プラスチック製品製造業（別掲を除く）</td> <td>5.4%</td> </tr> <tr> <td>金属製品製造業</td> <td>9.5%</td> </tr> <tr> <td>電子部品・デバイス・電子回路製造業</td> <td>12.2%</td> </tr> <tr> <td>電気機械器具製造業</td> <td>9.7%</td> </tr> <tr> <td>輸送用機械器具製造業</td> <td>4.6%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6.6%</td> </tr> <tr> <td>未分類</td> <td>6.1%</td> </tr> </tbody> </table>			指標	業種	構成比 (%)	製造品出荷額	食料品製造業	3.8%	印刷・同関連業	9.4%	織維工業	2.5%	プラスチック製品製造業（別掲を除く）	5.3%	金属製品製造業	5.6%	電子部品・デバイス・電子回路製造業	12.3%	電気機械器具製造業	6.0%	輸送用機械器具製造業	24.0%	その他	8.9%	未分類	9.1%	従業者数	食料品製造業	6.8%	印刷・同関連業	7.0%	織維工業	6.7%	プラスチック製品製造業（別掲を除く）	7.2%	金属製品製造業	11.6%	電子部品・デバイス・電子回路製造業	8.0%	電気機械器具製造業	4.6%	輸送用機械器具製造業	18.6%	その他	8.0%	未分類	10.0%	事業所数	食料品製造業	6.8%	印刷・同関連業	11.7%	織維工業	4.6%	プラスチック製品製造業（別掲を除く）	5.4%	金属製品製造業	9.5%	電子部品・デバイス・電子回路製造業	12.2%	電気機械器具製造業	9.7%	輸送用機械器具製造業	4.6%	その他	6.6%	未分類	6.1%
指標	業種	構成比 (%)																																																																		
製造品出荷額	食料品製造業	3.8%																																																																		
	印刷・同関連業	9.4%																																																																		
	織維工業	2.5%																																																																		
	プラスチック製品製造業（別掲を除く）	5.3%																																																																		
	金属製品製造業	5.6%																																																																		
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	12.3%																																																																		
	電気機械器具製造業	6.0%																																																																		
	輸送用機械器具製造業	24.0%																																																																		
	その他	8.9%																																																																		
	未分類	9.1%																																																																		
従業者数	食料品製造業	6.8%																																																																		
	印刷・同関連業	7.0%																																																																		
	織維工業	6.7%																																																																		
	プラスチック製品製造業（別掲を除く）	7.2%																																																																		
	金属製品製造業	11.6%																																																																		
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	8.0%																																																																		
	電気機械器具製造業	4.6%																																																																		
	輸送用機械器具製造業	18.6%																																																																		
	その他	8.0%																																																																		
	未分類	10.0%																																																																		
事業所数	食料品製造業	6.8%																																																																		
	印刷・同関連業	11.7%																																																																		
	織維工業	4.6%																																																																		
	プラスチック製品製造業（別掲を除く）	5.4%																																																																		
	金属製品製造業	9.5%																																																																		
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	12.2%																																																																		
	電気機械器具製造業	9.7%																																																																		
	輸送用機械器具製造業	4.6%																																																																		
	その他	6.6%																																																																		
	未分類	6.1%																																																																		
事業化への着眼点	<p>Gaki-Bizによるパートナー公募</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣ビジネスサポートセンター（略称：Gaki-Biz）は、当地域での創業を考えている人向けに、ハンズオンで支援するビズモデル型支援センターで、大垣市や大垣商工会議所等の地元政財界も全面的にバックアップしている。 Gaki-Bizを介して、西美濃の特産品開発・販売を事業化する上で不可欠なサプライチェーンのパートナーを公募すれば、地元での協業が成就する可能性が高まる。 <p>事業化例：「Gaki-Bizコード」</p> <ul style="list-style-type: none"> Gaki-Bizが最適な事業パートナーを極力地元で探す支援を打ち出すことで、この地での創業意欲が高まる可能性がある。 																																																																			
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 地元事業者の協力等 																																																																			

シートNo.	E-6 2	類型	産業力
地域資源名	商圏形成力（地の利）		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 西美濃地域は日本の人口重心に近く、交通至便で大消費地にも近いので、商圏形成上は他のすべての地域より優位性がある。 	【イメージ】	
内 容	<p>【人口】</p> <ul style="list-style-type: none"> 西美濃3市9町の人口合計は40万人弱で県内人口の約2割を占める圏域となっており、中核都市の大垣市の2019年5月31日現在の人口は161,380人で県内第2位である。 名古屋市へも車で1時間程度であり、大垣から1時間圏内的人口数は500万人程度あると見込まれる。 <p>【大垣市から三大都市までの距離】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣市から三大都市までの直線距離は、名古屋市33.3km、東京都282.8km、大阪府125.7kmで、立地条件に恵まれている。わが国全体の人口重心（岐阜県中濃地域）にも近く、日本のへそとも言うべき広域商圏化に有利な立地である。 <p>【地勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広大な濃尾平野の西部に立地していて、交通の障がいとなるような高山や険しい谷はなく、十分に整備されている道路、鉄道網や、港湾、空港へのアクセス性の良さもあって物流を伴うサプライチェーンの形成がしやすく、広域商圏化が狙い易い。 <p>【産業基盤】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣市は、工業生産額等は県下2位で、様々な業種の産業がバランス良く集積しており、サプライチェーンが組みやすい。 		
事業化への着眼点	<p>ワンストップ物流拠点化</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の商品を、最も効率的に運べる拠点となり得る地の利を生かす事業として、アマゾンの物流倉庫のようなワンストップ型の広域物流拠点が考えられる。 ただし、例えば、農産物、水産物、菓子、調味料など、対象を絞った範囲での品揃えの良さとリードタイムの短さ等を打ち出して、商圏形成力を狙うことで、拠点の認知度が高まり、同時に関連産業の呼び水となる可能性がある <p>事業化例：「エビの流通拠点化」</p> <ul style="list-style-type: none"> 単価が年々高騰しているエビは、物流効率化の妙味が大。 地元市場をNO.1拠点にすれば、関連企業も呼び込める。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		

シートNo.	E-63	類型	産業力
地域資源名	精密加工技術		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 「岐阜県市町村別地域産業資源一覧」にて指定済み。 （➡但し、ロボット部品、航空宇宙部品） 	【イメージ】	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 当地の主要産業である自動車関連産業は、膨大な部品メーカーの集積で成り立っており、近年の自動車の海外生産比率上昇を背景として、自動車部品依存度を下げるために、ロボットや航空宇宙分野等への進出が増大している。 大企業のこうした変化に対応するため、中小企業も独自技術に磨きをかけていて、金属表面加工、ウレタン加工、(1点ものの)切削加工や染色加工、素材を問わない印刷技術などを有しているものの、生産余力がある中小企業が多くある。 大垣市では大垣ビジネスサポートセンター（略称：Gaki-Biz）での事業相談事例などを通じて、他の企業との協業等に前向きな精密加工技術を有する中小企業等の情報を蓄積している。 		
事業化への着眼点	<p>餅は餅屋、加工は地元の加工屋</p> <ul style="list-style-type: none"> スタートアップ段階では、加工に必要な機材もノウハウも無く、この部分は外部の事業者に委託することも多いが、その際には、なかなか地元でパートナーが見つけられなかったり、外注加工の最低ロットが想像以上に大きかったり、新規取引になるため全額前金が前提となったりと、ハードルが高い。 そこで、大垣市の窓口で保持している情報を活用し、行政が橋渡しする形でマッチングを図れば、円滑に地元での取引関係が構築できる可能性がある。 <p>事業化例：「加工パートナー斡旋窗口」</p> <ul style="list-style-type: none"> 一步踏み込んだ創業支援として、最もニーズの高い加工受委託に絞ったマッチングを支援メニューとして打ち出すことで、企業間連携を加速させる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		

シートNo.	E-64	類型	産業力
地域資源名	石灰産業集積		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市の金生山は山全体が高品位の石灰石でできていて、江戸時代から露天で採掘が始まり、現在に至るまで脈々続いている。 現在、金生山周辺では5社が採掘しており、採石、精製、関連製品の製造、運搬など関連産業がごく限られた範囲に集中的に立地しており、集積度が高いのも特徴。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 石灰石は、鉱物資源の大半を輸入に頼っている日本にあって、例外的にほぼ自給できており、その中でも有力な鉱山が大垣市にある金生山である。 1919年（大正8年）には、早くも東海道線の支線が大垣駅から鉱山付近まで石灰運搬のために敷設されており、その後にできた西濃鉄道と併せて現在も使用されている。 露天掘りであるが市街地に近い立地であるため、採掘現場のみならず加工施設も高度な防塵・防音対策が必要であり、作業場の拡張余地も限られるため、コンパクトで無駄のない設備設計が求められる中、互いに切磋琢磨して技術力を高めて、わが国有数の石灰産業集積となり、現在に至っている。 江戸時代からずっと採掘が続いているが、まだまだ可採埋蔵量は豊富で、あと数百年は持つとも言われている。 		
事業化への着眼点	<p>石灰産業観光</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市近接立地でアクセス性が良く、採掘現場は露天掘りで壮観であるし、関連製品メーカーも集積していて見どころは多い。 わが国の誇る鉱物資源である石灰を、産業全体として体感できるのは大垣市の他にはないと思われ、このアドバンテージを生かしたツアーを実施することで話題性を呼ぶ可能性がある。 <p>事業化例：「JAPAN MADE LIME TOUR」</p> <ul style="list-style-type: none"> 巨大で複雑な石灰工場の外観を楽しむ「工場萌え」に加えて、壮観な露天掘り現場を眺める「鉱山萌え」、さらに1000℃超の高温下で製造する設備と対峙する「設備萌え」の要素もあり、まさにオンリーワンのツアーが組める。 金生山、赤坂宿、池田温泉といった近隣観光資源や、美濃赤坂線や西濃鉄道の乗車と組み合わせるとさらに魅力が増す。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 工場側の協力（受入手数料支払の要検討） 行政も交えた企画・P R 		

シートNo.	E-65	類型	産業力
地域資源名	抽出・精製・製剤産業集積		
市町村名	西美濃全域		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・当地はかつてレンゲ畑の広がりや日本の中央部の立地などから、蜂蜜の集散地となっていた。 ・蜂蜜業者の多角展開や周辺加工業者により、農産物等の素材から有効成分を抽出・精製・製剤するような高付加価値型の産業集積が形成され、その多くは日本全国あるいは国際的に事業展開をしている有力企業となっている。 ・これは当地の地域資源と言える。 	<p>【イメージ】</p> 	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的には、アピ、日新蜂蜜、一丸ファルコス、中日本カプセルなどが西美濃地域に集積していて、その多くはOEMを主力業態としている関係で、地域の特徴的な素材の受け入れは共同開発、受託開発・加工等にも、積極的に取り組んでいる。 ・これは、地域に集積する高度な加工技術が、地域の他の事業者に向けて開放されていて、事業コラボを組みやすいことを意味するものであり、積極的な事業者間のコラボの推進によるヒット商品開発やイノベーションが期待できる。 		
事業化への着眼点	<p>素材生産者との協業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽出・精製プロセスは、高度に機械化・自動化されているため、機械装置の能力によって製品の純度や生産量が制約される面が大きく、製品差別化の鍵となるのは原料素材の品質である。 ・このため、特徴的な素材を生産している農林漁業者などと抽出・精製事業者とが、直接コラボを組むことによって、素材の鮮度や品質レベルの高さを生かした高品位な製品の生産につながる可能性がある。 <p>事業化例：「薬草・野草商品の共同開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬草の山として古来有名な伊吹山においては、NPO等が主体となって様々な薬草や野草が栽培されていて品質面の評価は高いものの、生産・加工は小規模にとどまっており、抽出企業の知見も導入した栽培現場からの協業は双方にメリットがある可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地元自治体を交えた協議会等の検討組織づくり ・栽培現場への支援も含めた協業体制の作り込み 		

シートNo.	E-66	類型	産業力		
地域資源名	追熟・鮮度保持加工技術				
市町村名	大垣市				
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 西濃バナナ加工㈱は、岐阜県を中心とし東海圏へバナナ等の果物・野菜類の加工卸売を行っている。 当地で当社が発展してきたのは、大垣の市場が中京圏の生鮮食材の前捌きを担っていた地の利と、追熟・鮮度保持ノウハウの蓄積と、それをIT化で実装した加工保管設備を有しているからであり、地域資源と言える。 	【イメージ】 			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 西濃バナナ加工㈱は、40年に亘るバナナ追熟加工等の歴史有。 主力のバナナは、フィリピンなどから直接輸入し、専用バナナ熟成室でコンピュータによる自動コントロールのもと追熟加工し、見栄え・品質とも優れたバナナとしてスーパーなどの小売店へ、自社配送で卸している。 バナナのみならず、柑橘類、イチゴ、トマト、芋類、栗などの多くの果物・野菜は、収穫後も適切な環境下で追熟が進むため、店頭に商品が並ぶ日時から逆算して、入荷した商品の状態を個別かつ瞬時に見極め、最適な環境下で保管・熟成させ、低温管理しながら届けるシステムが不可欠である。 岐阜県内で圧倒的なシェアを有するほか、東海・関西エリアにおいても幅広く販売基盤を有しているのは、40年に亘る歴史の中で築き上げた追熟加工や鮮度保持加工に関するノウハウの蓄積と、そのノウハウをIT技術に融合させた自動制御の加工保管設備と自社配送設備を有しているからである。 また、葉物野菜等も店頭に並ぶタイミングを勘案して、シャキッとさせる鮮度保持加工するノウハウ・設備も有している。 				
事業化への着眼点	<p>地元農産物との組み合わせ加工</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在既にバナナを中心に、世界各地から様々な果物を中心に仕入・加工・卸売する営業基盤、システム、設備は当地にあるが、逆にまだ当地の農産物があまり組み込まれていないので、今後組み合わせて加工できる可能性がある。 <p>事業化例：「バナナプリン」</p> <ul style="list-style-type: none"> バナナと生乳とを適切に混合すると、凝固剤を一切加えなくとも固化してプリンができる。この性質を応用して、凝固剤はもとより、保存料、着色料、糖類、甘味料、増粘剤等を一切使わないバナナプリンを製造すれば、西濃バナナ加工(株)の販路と保冷車に乗せて販売できる可能性がある。 				
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 参画する農業生産者と委託加工事業者の確保 バナナプリンの商品開発 				

シートNo.	E-67	類型	産業力
地域資源名	撚糸加工技術		
市町村名	本巣市、関ヶ原町、養老町、安八町		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 西美濃地域はかつて紡績産業の集積地であり、紡績工場向けの紡績糸やストレッチ、ゴム類等の長纖維が多く、設備も長纖維に対応するダブルツイスターやリング式の機器が多い。 こういった技術基盤を背景に、「エアーかおる」のような画期的な新商品も生まれている。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 撚糸加工業というのは、紡績や織物といった比較的大規模な工場に供給する様々な性質を有する糸を撚って作る技術であり、地味ながら纖維産業を支える不可欠なサプライヤーである。 西美濃を含む濃尾平野西部は、わが国を代表する纖維産業集積地であったが、新興国の台頭で衰退してきており、この地の撚糸加工事業者も、長く厳しい状況が続いている。 そんな中にあって、安八町の浅野撚糸(株)は、社運をかけて自社の撚糸加工技術と他社の水溶性糸技術とを活用して多量の空隙を生じさせて膨らませる全く新しい撚糸加工方法を開発した。 この撚糸加工技術により、桁違いの吸水性、速乾性と軽さ、柔らかさを併せ持つ新商品「エアーかおる」の開発に成功し、2013年には経済産業省「ものづくり日本大賞」に選定され、同商品シリーズは大ヒットしている。 		
事業化への着眼点	<p>地域技術とのコラボによる地域商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> 今や輸出や医療部門への応用などにも展開している「エアーかおる」であるが、開発のきっかけが自社の撚糸技術と他社の水溶性糸技術とのコラボであったように、伝統的な撚糸加工技術が地域特有の他の技術とのコラボによって、地域色の強いオーナーワン商品が生まれる可能性がある。 <p>事業化例：「のこり染めとエアーかおるのコラボ商品開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> この冊子でも紹介した「のこり染め（B-35）」もまた、地域の伝統的な産業技術を応用した商品であるが、これを「エアーかおる」と組み合わせることで、エアーかおるの高機能性にのこり染めの地域性が加わって、魅力的なオーナーワン商品ができる可能性がある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 関係事業者間の合意形成 開発費用の分担と販売収益の分配 開発商品の販路構築 		

シートNo.	E-68	類型	産業力
地域資源名	容器・パッケージ産業集積		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<p>・西美濃地域には、素材や用途が様々な「容器」「パッケージ」を作る企業が複数存在しており、その中には全国有数のシェアがある有力企業も多く、容器・パッケージ産業集積地と言える。</p>		
		【イメージ】	
内 容	<p>・西美濃地域で「容器」「パッケージ」を製造する主な企業 <ガラス瓶> 日本耐酸壘工業</p>  <p><木枡> 大橋量器など</p>  <p><紙・プラ> 大鹿印刷所など</p>  <p><ポリ容器> コダマ樹脂工業</p>  <ul style="list-style-type: none"> 容器に入っている“モノ”や入れる“モノ”が主役であり、容器は脇役の存在と言える。しかし、顧客の満足度を高めるため、容器の質や形、利便性など、こだわりを持って作り続けてきた結果、今では、その脇役とも言える容器製造において、上記企業は業界内で高い知名度や信頼を得ている。 当地には、「容器」「パッケージ」では、全国屈指の事業者による産業集積がある。 		
事業化への着眼点	<p>P & P (ピッキング&パッキング) 需要の取り込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えれば、海外からコンテナ輸入される食材等は、通関後どこかで、検品→ゴミ除去→計量→小分け包装といった、いわゆるピッキング、パッキングといった作業を経て販売される。 そこで、当地の包装・容器産業集積を生かして、ピッキング・パッキング作業を請け負うセンターを設置して、そうした需要を積極的に取り込むことが考えられる <p>事業化例：「大垣市公設市場内P & Pセンター」</p> <ul style="list-style-type: none"> 物流拠点である大垣市公設市場内に、P & Pセンターを設置できれば、市場のインフラを生かせ、例えば近隣の大垣市かわなみ作業所利用者の就労の場ともなり得る。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業者間の合意形成 P & P用の容器・パッケージ開発 		

4. 地域資源発掘シート

F-69~75 応援団【7】

69-1~12 西美濃地域観光資源 …80~98

1 大垣観光協会	…80 ～82	2 海津市観光協会	…83 ～84	3 養老町観光協会	…85
4 垂井町観光協会	…86	5 関ヶ原観光協会	…87	6 神戸町総務部まちづくり戦略課	…88
7 輪之内観光委員会	…89	8 安八町企画調整課	…90	9 挿斐川町観光協会	…91 ～93
10 大野町観光協会	…94 ～96	11 池田町観光協会	…97	12 本巣市観光協会	…98

70-1~2 西美濃地域内本店金融機関 …99~100

1 大垣共立銀行(OKB)	…99	2 大垣西濃信用金庫	…100
---------------	-----	------------	------

71 大垣市	…101	72 大垣商工会議所	…102	73 大垣青年会議所(大垣JC)	…103
74 大垣ビジネスサポートセンター(Gaki-Biz)	…104	75 ソフトピアジャパン	…105		

シートNo.	F-69-1	類型	応援団
応援者名	大垣観光協会		
市町村名	大垣市		
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携DMO候補法人。 ・大垣市及び、西美濃全域を対象として観光誘客面から国内外に向けて発信できる「西美濃ブランド」の構築を図っている。 ・西美濃の地域資源を活用した事業化の立案においても、観光資源の活用面で応援可能で観光誘客との相乗効果が期待できる。 		
お勧め観光資源①	大垣城 <ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原合戦（1600年）の際に、西軍・石田三成の本拠となつた城。 ・4層4階の天守は珍しく、かつては国宝であったが、昭和20年の戦災で焼失。同34年に再建され、館内は資料館となっている。 	【イメージ】	
お勧め観光資源②	奥の細道むすびの地記念館・名勝「おくのほそ道の風景地 大垣船町川湊」 <ul style="list-style-type: none"> ・かつて川港として栄えたこの地は、松尾芭蕉の紀行文「奥の細道」のむすびの地としても知られ、芭蕉が舟に乗り桑名へ向かったとされる。 ・現在も往時の風情が残り、近くに建つ記念館では「奥の細道」や「松尾芭蕉」について学ぶことができる。 	【イメージ】	
お勧め観光資源③	水の都おおがき舟下り・たらい舟 <ul style="list-style-type: none"> ・水の都大垣の中心を流れる水門川で、桜の時期は和船による舟下り、新緑の時期はたらい舟が楽しめる。 ・たらい舟は、大垣城籠城戦の際、大垣城からたらい舟に乗り、難を逃れたという「おあむ物語」にちなみ、船頭が竿1本でたらい舟を操る大垣ならではの川下り。 	【イメージ】	

お勧め観光資源④	<p>大垣まつり（国重要無形民俗文化財「大垣祭の軸行事」）</p> <ul style="list-style-type: none"> 370年余の伝統を誇り、13両の軸が城下町を巡行する西美濃最大の祭り。 藩主下賜の軸と町衆の軸が併存するのは全国的に希少で、また東西祭礼文化の影響を残す。 ユネスコ無形文化遺産「山・鉢・屋台行事」のひとつ。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑤	<p>史跡 昼飯大塚古墳</p> <ul style="list-style-type: none"> 約1600年前に築かれた岐阜県最大の前方後円墳。 三段築成で、後円部の頂上に竪穴式石室、粘土櫛、木棺直葬という3つの埋葬形態が存在するが特徴で、国の史跡に指定されている。 現在は後円部の一部に葺石や埴輪、周濠を復元している。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑥	<p>多良峡</p> <ul style="list-style-type: none"> 揖斐・関ヶ原・養老国定公園、岐阜県の名水50選、飛騨・美濃紅葉33選に選ばれている渓谷。 夏は清流での魚釣りやキャンプなどで賑わい、秋には一斉に赤や黄色に色づく紅葉が美しく、「一之瀬嵐山」とも呼ばれている。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑦	<p>墨俣一夜城（歴史資料館）</p> <ul style="list-style-type: none"> 木下藤吉郎が一夜にして築城したとされる城址に、当時の砦の城ではなく城郭天守の体裁を整えた歴史資料館として、築城と秀吉に関する資料を展示している。 春には堤の桜が美しく多くの花見客で賑う。 	<p>【イメージ】</p> 

お勧め観光資源⑧	<p>水都まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣市は古くから水とともに栄えてきた水の都である。 ・天恵の豊富な地下水に感謝する祭りで、毎年、盛夏の8月の上旬に開かれている。幾百の七夕飾りがそよぐなかで、花火大会やおどり大会、万灯流しなど、多彩な行事が催され、多くの市民が涼を求めて訪れる。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑨	<p>十万石まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣藩主戸田氏の始祖である戸田一(かず)西(あき)公と初代藩主氏(うじ)鉄(かね)公をまつる常葉神社の例祭で、少年団体パレードやみこしの練り歩き、商店街のバザー等、多彩なイベントが行われる。 ・およそ50基の大人みこしや子供みこしが市内中心部を練り歩く姿はとても壮観である。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑩	<p>金生山化石館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化石研究に生涯を捧げた故熊野敏夫先生の業績と化石標本の展示・保存のために設立された。 ・化石館には、ジオラマ「赤坂の海」・「金生山とは」、地質区分、岩相標本、航空写真、地質図・「失われた世界」(古生代・中生代・新生代)環境、生態図、県内化石産地、代表化石や方解石・鉄鉱石、大理石工芸品等、700点程を展示している。 	<p>【イメージ】</p> 
応援窓口	大垣市船町2-26-1 奥の細道むすびの地記念館内 ☎ 0584-77-1535	

シートNo.	F-69-2	類型	応援団
応援者名	海津市観光協会		
市町村名	海津市		
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・西美濃全域を対象として観光誘客面から国内外に向けて発信できる「西美濃ブランド」の構築を図っている。 ・西美濃の地域資源を活用した事業化の立案においても、観光資源の活用面で応援可能で観光誘客との相乗効果が期待できる。 		
お勧め観光資源①	<p>木曽三川公園センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本最大の国営公園である木曽三川公園の中核施設で、水と緑の館や展望タワーがあり「水と緑の館」では、木曽三川の治水事業の歴史や流域に生息する魚や鳥、昆虫や植物などの紹介をしている。 ・チューリップ祭、四季折々のイベント等一年を通して楽しむことができる。 		
お勧め観光資源②	<p>千代保稻荷神社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“おちよばさん”の愛称で親しまれているこの神社の正式名称は「千代保稻荷神社」で商売繁盛・家内安全等のご利益があると言われている。 ・毎月月末から1日にかけて多くの参拝者が訪れ、名物が並ぶ参道も魅力的である。名物は川魚料理や漬物、草餅、串カツ等。 		
お勧め観光資源③	<p>月見の森</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濃尾平野が一望できる、展望台「月見台」は養老山地の中腹にある森林公園。 ・名月を観光資源に観光活性化を目指す国内唯一の認定ブランド「日本百名月」、夜景資源による観光活性化を目指す国内初の認定ブランド「日本夜景遺産」においても認定。 ・西濃地域において、2つの認定を受けているのは「月見の森」だけである。 		

お勧め観光資源④	道の駅 月見の里南濃 <ul style="list-style-type: none"> ・特産のみかんや柿をはじめ、ぶどう、いちじく、イチゴ、ブルーベリーなど年中果物が並ぶ道の駅として、多くの人で賑わう。 ・地元の新鮮野菜、特産品、道の駅内の加工所で製造したジャムやパンなどを豊富に取り揃えている。 	
お勧め観光資源⑤	道の駅 クレール平田 <ul style="list-style-type: none"> ・農家の朝採り新鮮野菜を格安で販売している。 ・レストランでは、朝はモーニングセット、ランチタイムには、道の駅ならではの「海津木曽三川駅弁」が大好評。 ・よもぎドーナツやよもぎロールケーキなど、よもぎを使ったスイーツなども取り揃えている。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑥	水晶の湯 <ul style="list-style-type: none"> ・アジサイ、サクラ、ツツジ、サツキなどの樹木や、四季折々の美しい草花や野鳥のさえずりなど、様々な表情を見せる。 ・濃尾平野を一望できる絶好のロケーションの岩風呂をはじめとし、多様な温泉を楽しむことができる。 	
応援窓口	海津市海津町高須563-1 海津市商工会会館内  0584-53-1133	

シートNo.	F-69-3	類型	応援団
応援者名	養老町観光協会		
市町村名	養老町		
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアや学校の他、近隣地域との連携、ガイドブックの作成など、多様化するニーズに対応できるよう積極的なPR活動や情報発信に努めている。 ・また、体験型観光の提供や観光資源の発掘・保護など地域に根付いた活動も実施し、周遊観光等の担い手として期待される。 		
お勧め観光資源①	<p>養老の滝</p> <p>・“滝の水がお酒になった”という孝子伝説が残り、「日本の滝百選」に選定されている名瀑。</p>		
お勧め観光資源②	<p>養老神社・菊水泉</p> <p>・元正天皇がこの地へ行幸された頃に、泉の水から菊の香りがすると評判になったことが「菊水泉」の由来といわれており、昭和の「名水百選」にも選ばれている。</p>		
お勧め観光資源③	<p>岐阜県こどもの国</p> <p>・敷地面積約10万m²、自然の畏敬と環境を十分に生かした児童の遊び場。 ・様々なイベントを随時開催している。</p>		
応援窓口	養老郡養老町高田798 養老町役場 産業建設部企業誘致・商工観光課内 ☎ 0584-32-1108		

シートNo.	F-69-4	類型	応援団
応援者名	垂井町観光協会		
市町村名	垂井町		
選定理由	—		
お勧め観光資源①	<p>相川鯉のぼり一斉遊泳</p> <ul style="list-style-type: none"> 各家庭等から寄附していただいた鯉のぼり350匹が相川上空を元気いっぱいに泳いでおり、毎年3月下旬～5月上旬に行われる。 伊吹山に残る雪と、相川沿いに咲く200本の桜を併せて楽しむこともできる。 		
	<p>【イメージ】</p> 		
お勧め観光資源②	<p>垂井曳軸まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> 660年以上も続く祭りで、5月2日～4日に開催される。 絢爛豪華な3輦の曳軸を曳き回し、その舞台では、地元の小学生男児が子供歌舞伎を演じるのが見どころ。 		
	<p>【イメージ】</p> 		
お勧め観光資源③	<p>美濃国一宮 南宮大社</p> <ul style="list-style-type: none"> 和様と唐様を折衷した「南宮造り」で、国の重要文化財に指定されている。 5月5日の例大祭、11月8日の金山祭など、年間を通じて大小50余りの祭典が行われ、多くの観光客が訪れる観光スポットである。 		
	<p>【イメージ】</p> 		
お勧め観光資源④	<p>竹中氏陣屋跡</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊臣秀吉の名軍師、竹中半兵衛重治の子、重門が築いたもので、創建当時を思わせる白壁の櫓門や水堀、石垣の一部などが残っている。 この櫓門は、旗本では全国唯一の城郭建造物である。 		
	<p>【イメージ】</p> 		
応援窓口	不破郡垂井町1812-10 垂井町観光案内所 ☎ 0584-23-2020		

シートNo.	F-69-5	類型	応援団
応援者名	関ヶ原観光協会		
市町村名	関ヶ原町		
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・主に関ヶ原の観光情報を収集し発信する事業を実施しており、特にSNS (Twitter、Facebook) を活用した情報発信力は高い。 ・関ヶ原駅前観光交流館を運営し、物販やレンタルサイクル事業を展開しながら各観光関連業者等と連携した事業を実施している。 ・西美濃の地域資源を活用した事業化の立案においても、観光資源の活用面で応援可能で観光誘客との相乗効果が期待できる。 		
お勧め観光資源①	関ヶ原古戦場 <ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原合戦（1600年）の舞台となつた関ヶ原町は、参戦した武将の陣跡などの史跡が多数存在している。中でも西軍を率いた石田三成の陣地跡である 笹尾山の山頂には展望デッキがあり戦場が一望できる人気スポット。 	【イメージ】 	
お勧め観光資源②	関ヶ原駅前観光交流館 <ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原の観光情報の発信拠点としてH27年10月にオープン。観光案内のほか、戦国グッズなどのおみやげショップや休憩スペースもあり、古戦場巡りの拠点として利用できる。 	【イメージ】 	
お勧め観光資源③	伊吹山ドライブウェイ <ul style="list-style-type: none"> ・名神関ヶ原インターより約2km、伊吹山に至る全線17kmのドライブウェイで、スカイテラス駐車場から山頂までは登山道があり、途中は高山植物による「お花畠」など自然観察などが楽しめる。 	【イメージ】 	
応援窓口	関ヶ原町大字関ヶ原1167-1  0584-43-1600		

シートNo.	F-69-6	類型	応援団
応援者名	神戸町総務部まちづくり戦略課		
市町村名	神戸町		
選定理由	・いずれも、県内外から多くの観光客が訪れる施設・イベントであり、西美濃全域を対象として観光誘客面から国内外に向けて発信できる「西美濃ブランド」として、効果が期待できる。		
お勧め観光資源①	<p>ばら公園いこいの広場</p> <ul style="list-style-type: none"> 町の花「バラ」を、9,000m²の敷地に約300品種、約3,300株植栽してある。 テーマごとに、それぞれ違った香りや花の形を楽しむことができる。 芝生広場には、大型遊具があり、休日には多くの家族連れで賑わう。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源②	<p>日吉神社</p> <ul style="list-style-type: none"> 日吉神社は、町の中心にあって神戸山王まつりの舞台となっており、文化遺産と歴史の宝庫。 神社境内には、神仏習合の名残の「三重塔」が建立され、国の重要文化財に指定されている。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源③	<p>神戸山王まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月3・4日に開催される“神戸山王まつり”は、全国的にもまれな、勇壮、豪快な火まつりとして知られ、祭り当日は遠方からの来場者も多く訪れる。 4日零時の朝渡御は、御拝殿から7社の大神輿が前後を大小幾千本もの松明に守られ、御旅所までの450mの参道を疾走する様は、まさに圧巻。 	<p>【イメージ】</p> 	
応援窓口	安八郡神戸町大字神戸1111番地 神戸町総務部まちづくり戦略課 ☎ 0584-27-0172		

シートNo.	F-69-7	類型	応援団
応援者名	輪之内観光委員会		
市町村名	輪之内町		
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・輪之内町内で歴史探訪（まちあるきのようなイベント）や観光展への出展を行っており、来町者の増加に努めている。 ・有識者等、史跡ガイド等の候補者にもなり得る人材もいて、今後の観光資源の有効活用を図ることが出来る。 		
お勧め観光資源①	<p>本戸輪中堤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪中の象徴 ・安八水害時にも町民を水害から守った堤防である。 ・春は2kmに渡る桜並木、夏はあじさいが楽しめ、岐阜県最大級の田んぼアートのビューポイントになっている。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源②	<p>乙姫公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども等を水難事故から守ることを祈願して作られた私設の公園 ・世界最大の「乙姫像」や浦島太郎像があり、町民をはじめ憩いの場として「乙姫さん」として親しまれている。 	<p>【イメージ】</p> 	
応援窓口	輪之内町四郷2520 輪之内町商工会館内 ☎ 0584-69-2188		

シートNo.	F-69-8	類型	応援団
応援者名	安八町企画調整課		
市町村名	安八町		
選定理由	広く情報発信や誘客の手段を持っている。		
お勧め観光資源①	<p>結神社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平安時代末期創建で地名の由来にもなった由緒ある神社 ・織田信長が長篠の戦いの前に7日間の戦勝祈願をした逸話や、歌舞伎の演目にもある照手姫と小栗判官の愛と信仰にまつわる伝説が残る ・近年は縁結びの神として崇拝され、女性を中心に入気があり、ハートをくり抜く絵馬や赤い糸のお守り等グッズも好評 		
【イメージ】			
お勧め観光資源②	<p>安八温泉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約1,500メートルの地中深くから湧き出る温泉は、ナトリウム塩化物温泉で、神經・筋肉・関節などの痛みの緩和や疲労回復、健康増進などに効果あり ・広々とした大浴場のほか、庭園を楽しみながら入れる露天風呂や壺風呂、ひのき風呂がある ・町の特産品も常時販売しており、地元住民はもちろん、幅広い地域の方の憩いの場となっている 		
【イメージ】			
お勧め観光資源③	<p>安八百梅園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約3.9ヘクタールの敷地内に100種類以上、1,200本以上の実梅・花梅が植栽されている ・早咲きの八重寒紅・玉牡丹から遅咲きの開運梅・淋子梅など、品種によって開花時期が異なるため、長い期間にわたって楽しむことができる ・平成30年に夏の台風で倒木したにもかかわらず、見事に綺麗な花を咲かせたことで名付けられた『ど根性梅』が訪れる方々の感動を誘っている 		
【イメージ】			
応援窓口	安八町氷取161 安八町役場 企画調整課 ☎0584-64-3111（代表）☎0584-64-7101（直通）		

シートNo.	F-69-9	類型	応援団
応援者名	揖斐川町観光協会		
市町村名	揖斐川町		
選定理由	町内の各観光協会が加盟している団体で、町内の観光関連情報を集約している。揖斐川町役場観光文化戦略課内に事務所を置く。観光資源の活用について意見や調整を求めることができる。		
お勧め観光資源①	<p>谷汲山華厳寺</p> <ul style="list-style-type: none"> 798年に豊然小人が開創した天台宗の寺。 西国33カ所巡礼の満願霊場として、古来より多くの巡礼者でにぎわう。 桜や紅葉の名所としても知られる。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源②	<p>粕川オートキャンプ場</p> <ul style="list-style-type: none"> 大勢の家族連れなどでにぎわう人気のオートキャンプ場。 「都市・地域再生等利用区域」に指定されており、この区域で民間事業者が営業活動やイベントを行うことができる。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源③	<p>徳山ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> 揖斐川をせき止めて建設された、日本一の総貯水容量（6億6千万トン、浜名湖の約2倍）を誇るダム。 広大なダム湖（徳山湖）の風景が美しい。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源④	<p>道の駅「夢さんさん谷汲」・谷汲緑地公園</p> <ul style="list-style-type: none"> 華厳寺と横蔵寺を結ぶ道中に位置する道の駅。 隣りには谷汲緑地公園があり、広大な芝生広場や木製遊具がありにぎわう。公園内には、バーベキューハウスが併設されている。 	<p>【イメージ】</p> 	

お勧め観光資源⑤	道の駅「星のふる里ふじはし」・いび川温泉 藤橋の湯 <ul style="list-style-type: none"> ・徳山ダムや藤橋城へと向かう道中に位置し、観光客の憩いの場としてにぎわう。物産販売所やレストラン、徳山民俗資料収蔵庫を併設。 ・同じ敷地内に温泉施設あり。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑥	藤橋城・西美濃プラネタリウム・ふじはし星の家 <ul style="list-style-type: none"> ・城型の施設内は自然科学資料館やプラネタリウムとなっており、職員の解説付きで投影された星空を鑑賞できる。 ・西美濃天文台が併設されている。 ・近隣に研修や合宿に利用できる宿泊施設「ふじはし星の家」あり。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑦	かすがモリモリ村リフレッシュ館（薬草風呂） <ul style="list-style-type: none"> ・伊吹山麓の薬草をふんだんに使った薬草風呂として人気。 ・物産販売所やレストランを併設している。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑧	久瀬温泉露天風呂「白龍の湯」 <ul style="list-style-type: none"> ・シンプルで小規模な露天風呂として人気。山深い場所に立地しており、温泉浴と森林浴が満喫できる。 	<p>【イメージ】</p> 

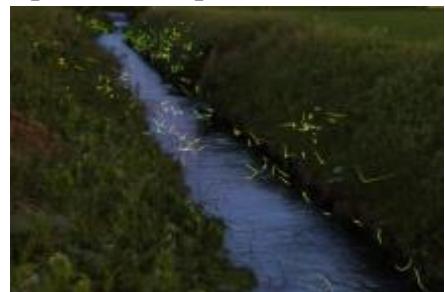
お勧め観光資源⑨	<p>月夜谷ふれあいの里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな山林を生かして整備された景観が美しいキャンプ場。 ・コテージには冷暖房やベッドが完備されており、気軽にアウトドアを楽しめ、シーズン中は大勢の利用客でにぎわう。 	<p>【イメージ】</p> 
応援窓口	<p>揖斐川町三輪133 措斐川町企画部観光文化戦略課内  0585-22-2111（代表）</p>	

シートNo.	F-69-10	類型	応援団
応援者名	大野町観光協会		
市町村名	大野町		
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県南西部に位置し、天然記念物や史跡等がコンパクトに点在し、観光するにあたり便利である為。 西美濃の地域資源を活用した事業化の立案においても、観光資源面での応援可能で観光誘客との相乗効果が期待できる 		
お勧め観光資源①	<p>バラ公園</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成9年に開園したバラ苗生産日本一の大野町が誇る公園。150種類2,000株以上の多種多様なバラが咲きそろい、バラのアーチ、遊具、縁台等を備えた、ゆっくりくつろげる憩いの場になっており、毎年5月に開催される『バラまつり』では、満開のバラを自由に見られるだけでなく、イベント期間中は会場内でバラ苗生産者から直接バラ苗が購入でき、毎年ガーデニング愛好家の方を中心に県内外から多くの方が来場する。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源②	<p>黒野駅レールパーク（黒野駅ミュージアム）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年4月から大野町の新しいテーマパークとして完成。その一角に、廃線した名古屋鉄道旧黒野駅の思い出が残る駅舎やプラットホーム、レール等が当時の雰囲気を残したまま、新しい交流拠点として来場者を出迎える。 駅舎（ミュージアム）には、大野町内を名鉄電車が走るジオラマや運行当時の写真や資料等が展示されている。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源③	<p>竹中半兵衛生誕の地</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦国時代、豊臣秀吉の軍師として活躍した竹中半兵衛重治公は、天文13年（1544）、竹中遠江守重元の長子として、大御堂城（現大野町公郷）で誕生した。竹中家ゆかりの八幡神社の脇に、希代の軍師を讃え、生誕の地を示す碑が建立されている。 	<p>【イメージ】</p> 	

お勧め観光資源④	<p>揖斐二度ザ克拉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定天然記念物。1つの木に、一重と八重の花が咲く珍しい桜。特に、八重咲きのなかに二段咲きの花が見られる。平成24年3月に二度ザ克拉公園を整備し、天然記念物に指定された桜4本から分木をした86本の二度桜が植栽されている。 ・貴重な二段咲きの花を発見できれば幸運が訪れるという噂がある（4月上旬～中旬が見ごろ） 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑤	<p>野古墳群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内に点在する200基を超える古墳の中でも5世紀後半から6世紀初頭（今から約1500年前）にかけて造営された野集落西方にある古墳群。 ・この時期にこれだけの規模の古墳が密集して造営されることは希なため、国の史跡に指定されている。 ・古墳群成立当時は、もっと多くの古墳が造営されていたが、開墾により失われ、現在9基が残存し、10号墳から17号墳までが発掘調査により確認されている。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑥	<p>牧村家住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代中期の農家の佇まいを今に伝える、岐阜県内に残る国重要文化財の中で最古の民家建築物。 ・現在では希少となった鳥居建形式の民家で、主要部分はほぼ創建時まま残されている。 <p>※現在も住まいとして利用されており、施設見物をする場合は事前連絡が必要。</p>	<p>【イメージ】</p> 

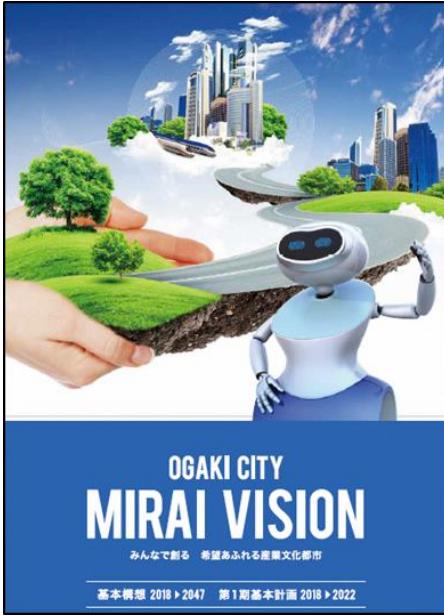
お勧め観光資源⑦	<p>大谷スカイライン野村山展望台</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大野町から揖斐川町谷汲に通じる大谷スカイライン（県道266号線）にある展望台は桜の名所として有名。 ・展望台からは濃尾平野を一望でき、空気の澄んだ日は、名古屋のツインタワーなどを眺めることが出来る。また、展望台から見る夜景もとても雄大。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑧	<p>大野町運動公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内・外野を含め5,700人収容できる野球場（レインボースタジアム）と、ソフトボールやサッカー等多くのスポーツが楽しめる多目的運動場（メイプルグラウンド）、ゲンジホタルの養殖を行っているホタル野外ミュージアムなどがあり、体育文化の拠点となっている。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑨	<p>森林空間散策路・糺の森</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揖斐郡大野町の北部山麓に整備された森林浴を楽しむ癒しの空間や健康増進のための空間。古墳や城跡など豊富な歴史遺産に富むエリアで全12コースのウォーキングが楽しめる。 ・週末ともなると、町内外より多くの方々が自然の中でのウォーキングを楽しみに森林空間を訪れる。なかでも運動公園から登る森林浴コースがお薦め。 	<p>【イメージ】</p> 
お勧め観光資源⑩	<p>道の駅パレットピアおおの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年7月オープン。大野町(ONO)の0にちなんだ円形の巨大屋根付き回廊でかこまれたふわふわ広場と、地域振興施設、子育て支援施設、情報館で構成された道の駅。 ・約2万7千平方メートルの敷地内には、250台以上の駐車場や路線バスの停留所も整備され、地域振興施設内には、物産販売所、催事コーナー、ベーカリー＆カフェ、レストランなどを備え、岐阜県内では最大規模。 	<p>【イメージ】</p> 
応援窓口	<p>揖斐郡大野町大字大野80 大野町役場産業建設部 観光企業誘致課内 ☎ 0585-34-1111</p>	

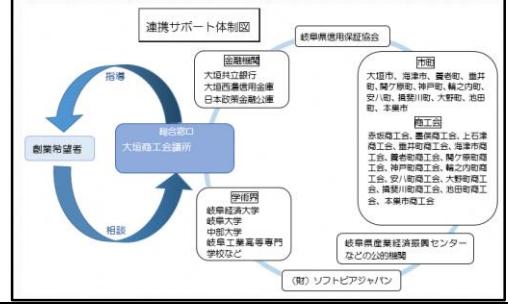
シートNo.	F-69-11	類型	応援団
応援者名	池田町観光協会		
市町村名	池田町		
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> 事務局が池田町役場産業課内 池田町の数ある観光資源の中、来園者、来館者の実績があり、自他共に推奨する観光資源の為。 		
お勧め観光資源①	<p>霞間ヶ渓・霞間ヶ渓花畠</p> <ul style="list-style-type: none"> 春になると、山桜を中心に約1500本もの桜が咲き誇る霞間ヶ渓公園、国の名勝・天然記念物や日本桜100選にも選ばれており、桜の咲く様子を遠くから望むと霞がかかったように見えることからいつしか「霞間ヶ渓」と呼ばれるようになったとか。 2018年4月からは、霞間ヶ渓公園に併設される形で霞間ヶ渓花畠がオープン。春はしだれ桜や芝桜、夏にはアジサイ、秋にはイロハモミジやドウダンツツジ、キリシマツツジなどの紅葉。冬には寒椿が咲き、一年を通して色とりどりの花を楽しむことができる。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源②	<p>池田温泉本館・新館</p> <ul style="list-style-type: none"> 池田温泉は重曹以外の成分をほとんど含まない全国的にも珍しい純重曹の温泉で、ぬめりが強く、美肌効果は絶大と人気の温泉。 木々に囲まれた山あい静かな風情の「本館」、歩行浴・壺湯などバラエティー豊かなお風呂を楽しめる「新館」で、大人から子供まで湯あそび感覚で楽しめる。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源③	<p>池田山（昼・夜）</p> <ul style="list-style-type: none"> 池田町の西側にそびえ立つ標高924mの山です。昼は濃尾平野を一望でき、晴れた日だと富士山が見えるとか。夜は色を変え濃尾平野のロマンティックな夜景が味わうことが出来、老若男女問わず楽しむことが出来る場所となっている。 また、霞間ヶ渓、大津谷登山道では登山が楽しめ、山と語り合いながら自然を味わう事ができる。 	<p>【イメージ】</p> 	
応援窓口	<p>池田町役場 産業課内 ☎ 0585-45-3111(代表)</p>		

シートNo.	F-69-12	類型	応援団
応援者名	本巣市観光協会		
市町村名	本巣市		
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやSNSで主に本巣市の観光情報を発信している。 道の駅「織部の里もとす」に隣接する織部展示館内の観光協会事務局と、管理運営を行う本巣市観光案内所にて、西美濃地域の観光情報の問い合わせに対応している。 		
お勧め観光資源①	<p>淡墨桜</p> <ul style="list-style-type: none"> 樹齢1500余年の繼体天皇お手植えと伝えられる一本桜。日本三大桜の一つで国の天然記念物に指定されている。 つぼみのときは薄いピンク色、満開になるとつややかな白色、散りざわには特異の淡い墨色を帯びるのが特徴。 開花シーズンには、日没後にLED照明によるライトアップが行われる。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源②	<p>地震断層観察館・根尾谷断層</p> <ul style="list-style-type: none"> 1891年に東海地方を襲った濃尾地震で生じた根尾谷断層は、国の特別天然記念物に指定されている。 地震断層観察館は地震について学習できる総合施設。施設内で断層を見ることや、地震の体験ができる。 	<p>【イメージ】</p> 	
お勧め観光資源③	<p>席田用水のほたる</p> <ul style="list-style-type: none"> 見頃は、5月中旬すぎから6月上旬頃の19:30~21:30頃。 本巣市ほたる公園から本巣市民スポーツツープラザまで伸びている、席田用水沿いの舗装された約1.5kmの道路が、絶好の観賞ポイント。 ゲンジボタルが幻想的に舞う様子を見ることができる。 	<p>【イメージ】</p> 	
応援窓口	本巣市山口676番地 織部展示館内 ☎ 0581-34-3988		

シートNo.	F-7 O-1	類型	応援団
応援者名	大垣共立銀行（OKB）		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 大垣市に本店を置く地方銀行。地域金融機関の使命として、地域の永続的な発展に資する取組を積極的に行っている。また、グループ会社による多面的な支援が期待できる。 	<p>【イメージ】</p> <p>ホットなサービスをお届けする</p> <p>OKB 大垣共立銀行</p>	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> OKB 大垣共立銀行は、大垣市に本店を置く地方銀行。 利便性・話題性の高い商品やサービスを積極的に提供し、業界内外から関心を集めている。 略称OKBをブランドとして掲げ、ブランド浸透を積極的に推し進めている。 グループ会社のOKB総研では、農林研究所やFinTech戦略室を設置するなど、時代を先取る新しい取り組みを図っている。 グループ外の企業に「OKB 農場」といった命名権による支援を行うなど、グループ外へのベンチャー支援にも積極的。 		
事業化への着眼点	<p>支援チームへの参画とベンチャー支援の対象化</p> <ul style="list-style-type: none"> 当プロジェクトに当初から参画して、対象企業の事業化に向けて、販路構築、人脈紹介、委託先紹介、事業計画立案支援など、非金融分野においてまずは支援チームの一員として関わることで事業化への確度を高めながら、希望があれば適切にOKBグループの有するベンチャー支援の枠組みに乗せて、安定的な成長を後押しする。 <p>事業化例：「ベンチャー支援の枠組みへの優先的な検討」</p> <ul style="list-style-type: none"> OKBには、アグリビジネスファンド、アグリビジネス助成金、ベンチャー投融資制度など多様なベンチャー支援の枠組みがあるが、西美濃広域連携事業で優秀な評価を得た案件については、チームの一員としてハンズオン支援しながら、需資発生時には希望があれば、それらの枠組みを活用して優先的に支援を検討する。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> OKB 大垣共立銀行グループ内の支援体制構築 		

シートNo.	F-70-2	類型	応援団
応援者名	大垣西濃信用金庫		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 西濃地域を営業基盤とする地域密着の信用金庫。「お客様支持No.1の金融機関」を目指し、鋭意その実現に努力している。 多くのお客様を訪問する中で、連携情報や地域資源情報を掘り起し、地域の事業者を結びつける支援が期待できる。 	<p>【イメージ】</p> 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 西濃地域を営業基盤とし、地域に密着したお客様支援に取り組んでいる。 <p>【経営方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> お客様と地域社会の繁栄に奉仕する 健全でバランスの取れた経営を実践する 職員の幸せとやりがいのある職場を実現する <ul style="list-style-type: none"> 令和元年6月には事業支援部をビジネスサポート部に改称し、お客様への更なる本業支援強化に取り組む態勢を構築した。 		
事業化への着眼点	<p>売上アップ・新事業創出を目指した経営相談による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣西濃信用金庫では営業エリア内の中小・小規模事業者等の抱える様々な経営課題の解決と多くの事業者が目指す売上アップに対する支援を目的に、無料のコンサルティングセンターである「だいしんビジネスてらす」での経営相談を実施している。 「だいしんビジネスてらす」の活用により、地域における新事業創出等に対しての支援が可能な態勢にある。 <p>全国の信用金庫のネットワークを活かしたマッチング・連携への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した新規事業・新商品・サービスの展開においては販路開拓や他企業とのマッチング・連携が必要となってくる。 このようなマッチング・連携への対応について、大垣西濃信用金庫では「マッチングサイト『絆』」による地産地消のマッチング及び全国の信用金庫のネットワークを活用したサイトである「よい仕事おこしネットワーク」を用いたマッチングによる支援が可能である。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		

シートNo.	F-7 1	類型	応援団	
応援者名	大垣市			
市町村名	大垣市			
地域資源となる理由	・西美濃エリアの中心都市としての行政機関であるため	【イメージ】		
内 容	・大垣市未来ビジョン	 		
事業化への着眼点	<p>地域資源を活用したビジネス創出の火付け役</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化、雇用創出、税収アップなど、創業を支援した企業が地元に根を下ろして成長することのメリットは大きく、西美濃広域連携を前提とすることで、素材（地域資源等）や経営資源を集めやすくなるという利点を生かして、地域資源活用型のビジネス創出支援を継続的に行うことは意味がある。 <p>事業化例：「行政機関として支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西美濃地域の中核都市の行政機関として多方面での支援が期待できる。 			
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 			

シートNo.	F-72	類型	応援団
応援者名	大垣商工会議所		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣商工会議所は、当地区における商工業の総合的な改善発達の推進を目的とした商工業者によって組織される自由会員制の公益経済団体であるため。 	【イメージ】	<p style="text-align: center;">活かせ英知 地域に元気と活力を！</p>  <p>The Ogaki Chamber of Commerce & Industry</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣商工会議所の創立は1893年3月。 ・会員数は約2,300社。 ・中小企業の総合的な改善発達の推進を目的として、中小企業への経営支援、企業のIT活用の推進、人材確保・育成を中心に、企業の環境対策の推進、交流産業戦略の推進、中心市街地活性化の推進、産業基盤の整備促進事業などに取り組んでいる。 	<p>創業支援総合窓口の設置</p> <p>大垣商工会議所に、創業支援総合窓口（ワンストップ窓口）を設置し、創業に必要な各種申請や届け出に関する事、融資や助成金の申請手続きに関する事など、あらゆる相談をワンストップで受け付けております。</p> <p>また、各支援機関が実施する、創業・経営相談、サポートメニュー等の情報提供を行うとともに、必要に応じて各支援機関等をご紹介しています。</p> <p>もちろん、創業後間もない方の経営相談にも対応いたしておりますので、身近な相手として、お気軽に総合窓口（大垣商工会議所）をご利用ください。</p> 	
事業化への着眼点	<p>会員企業との協業の橋渡し役</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大垣市に本社を置く株式公開企業の8社をはじめ、多岐に亘る業種の多数の企業が会員となっている当会議所が、協業を希望する企業からの相談窓口となり、内容を咀嚼した上で会員企業に伝えていただく。 ・公的機関である商工会議所に仲介をして頂くことで、初対面でも安心感が生まれてハードルが下がって協業が広がりやすくなり、会員企業のビジネスチャンスの増大と商工会議所の会員サービス拡充とが同時に可能となる。 <p>事業化例：「協業キューピット窓口」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは、商工会議所の会員企業向けの新サービスとしての提案。上記の通り、会員企業へのアプローチに加えて、会員企業からのアプローチの双方向の協業相談窓口として機能すればすべての会員企業にもメリットがある。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・橋渡し役となる人材の確保 		

シートNo.	F-7 3	類型	応援団
応援者名	大垣青年会議所（大垣JC）		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 明るい豊かな社会の実現を目指し西濃地域で活動する青年経済人公益社団法人 	【イメージ】	
内容	<p><JCとは></p> <ul style="list-style-type: none"> 『奉仕』『友情』『修練』という三信条のもと、『明るい豊かな社会』の実現を目指す指導者たるんとする青年団体。20歳から40歳までの志の高い青年経済人によって構成されている。 <p><大垣JC></p> <ul style="list-style-type: none"> 1952年2月、西美濃地域の青年35名の熱き思いが結集され全国で25番目の青年会議所として誕生。 設立の趣旨「知性と徳性の練磨に勤め地方経済の発展に奉仕する」を踏まえ、地域社会・経済のために情熱と信念を持って活動している。 現在は2010年代に運動方針に基づき西美濃住民と策定した「西美濃協調グランドデザイン」を基に運動を行っており、各自治体や各種団体が行政区の枠を超えて、手を取り合って地域の誇る自然や歴史、特産品など個性ある魅力を全国に発信している。 		
事業化への着眼点	<p>これからの西美濃地域を担う若手人材による連携側面支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣JCは西美濃ブランドの構築・確立に向け活動しており、事業主体ではなく、事業化に向けた連携・側面支援が期待できる。 <p>事業化例：「事業化に向け『協働』によるPRなど」</p> <ul style="list-style-type: none"> これからの西美濃地域を担う企業の若手人材が属しており、中長期的な視点での連携や事業化支援が期待できる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		

シートNo.	F-74	類型	応援団
応援者名	大垣ビジネスサポートセンター (Gaki-Biz)		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 当センターは、全国初の地域企業によるCSR（企業の社会貢献活動）型のBizセンターとして、地域ビジネスの創出支援事業を展開している。 	【イメージ】	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 大垣地域の産業の振興及び地域経済の活性化を図るため、产学研官が連携して、「大垣地域経済戦略推進協議会」が設立され、協議会のメンバーが主体となり、売上向上に重点を置いた具体的なプランやアイディアを提案することを目的として運営していくBizセンターとして当センターが設立された。 当地域の活性化のためには、地域ビジネスの創出を一丸となって支援していく必要があるとの考えにより、協議会主要メンバーによる資金拠出等の支援により運営している点で、CSR型のBizセンターとも言われている。 H.I.S.出身で、国内外の観光関連の新規ビジネスの立ち上げを数多く主導してきた正田嗣文氏をセンター長に招聘して、昨年より相談対応を精力的に行っている。 起業・創業支援を主体に、新規事業への進出、新商品開発、販路開拓など、幅広く対応している。 相談は何度でも無料で、相談者の居住地や営業地の制限も特に設けてはいない。 		
事業化への着眼点	<p>相談情報を生かした地域内での新規事業マッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の通り、幅広く地元中小企業者のビジネス相談に精力的に対応している結果、当地中小企業者の有する秀でた技術シーズ、ノウハウを、ニーズとともに聞き取りをした情報がGaki-Bizには日々蓄積されつつある。 そこで、この冊子を見て新産業創出事業への公募を検討する中で、自社では弱い分野に強い事業者見つかれば、パートナーシップを組んで事業化に臨むことが可能となり、事業化の確度が高まる。 Gaki-Bizに相談に来た相手方の事業者も、やはりビジネスパートナーを探している面があり、Gaki-Bizが客観的に見てお互いにふさわしいパートナーとなる可能性があると判断できれば、お互いの了解を得て引き合わせることで、地元でのビジネス展開を加速させる可能性がある。 <p>事業化例：「新産出創出事業パートナー紹介」</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の通り 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		

シートNo.	F-75	類型	応援団
応援者名	ソフトピアジャパン		
市町村名	大垣市		
地域資源となる理由	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県におけるソフト産業の育成・支援の中核を担っている。 	<p>【イメージ】</p> 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 中核施設となるセンタービルを中心とした先進情報産業団地。IT関連企業140社以上が集まりIT関連技術者は2,100人超が働いている。 岐阜県が推進する地域情報化推進政策（ソフトピアジャパンプロジェクト）の中核機能としての役割を担っている。ソフトピアジャパンエリアのIT関連企業の集積や優れた情報基盤を生かして、地域産業の高度化を担う人材を育成・供給している。また、ITによる生産性向上や商品の競争力向上を目指した産業の情報化と、これを支える情報サービス業の振興を通じ、県内産業の活性化を図っている。 <p><入居企業の主な業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> オリジナルアプリの開発 自社ホームページの見直し IT化による業務効率 システムの導入 PRチラシの企画、デザインなど 		
事業化への着眼点	<p>岐阜県・西美濃地域における情報発信拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業化の主体となるのではなく、岐阜県・大垣市における情報発信拠点として、事業化案件の情報発信の一助とする。 <p>事業化例：「ソフトピアジャパンで培われている情報発信力を活用し事業の成功へ導く」</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在ソフトピアジャパンに入居しているIT系ベンチャー、スタートアップ企業の事業アイデアを利活用し、商品サービスの情報発信に繋げることが期待できる。 		
事業化に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		